

* 特集

第三二回 日本・韓国大学出版部協会合同セミナー

コンテンツという宇宙

第三二回日韓セミナーに参加して 笹岡五郎

1

デジタル化の潮流に大学出版会は

どう向き合っていくべきか 小磯勝人

5

私たちの皆が愛するものの未来 金容勳

10

国際マーケットへの情報発信

第六四回フランクフルト・ブックフェア報告 井土純子

16

中東の大ブックフェア

第三三回ドーハ国際ブックフェア報告 岡田智武

18

哀悼 箕輪成男さん 石井和夫

20

* 連載

初版本、ナンセンスなフェティシズム

万城目学著『とつぴんばらりの風太郎』酒井道夫 表 2

大学出版部ニュース

21

JAPANESE
UNIVERSITY
PRESS

NO. 97
2014.1
WINTER

大学出版
大学と社会を結ぶ
知のネットワーク



一般社団法人
大学出版部協会

THE
ASSOCIATION
OF
JAPANESE
UNIVERSITY
PRESSES

NO. 97
2014.1
*冬

万城目学著

『とっぴんぱらりの風太郎』

酒井道夫 二代目酒井九波堂



ジャケットなのか帯なのか、いずれにせよ惹句が読者を誘う。本体装丁は、某ブランドの有名パターンのもじりか？ コーティングの效果で漆塗りのような地色の上に、内容にまつわるカラフルなイメージが鏤められている

残念ながら、老人は歯医者に通う頻度が増す。通院の度に待合室備え付けの週刊誌を手取るのがちよつとした楽しみ。だが、毎号欠かさず連載小説をチェックするほどの通い詰めでもない。そんな日々の中で、近頃気になっていたのが本作。『週刊文春』での連載は、装画、レイアウトの新鮮さにまづ惹かれた。その上で「え、万城目学？」と気づいた。だが、普段は気軽な文体で人気な彼だと思いが今回は少し調子が違う？ 連載を切れ切れに読んだのでは話の流れが掴めなくて楽しめない、でも気になる。気にはなるが文脈が掴めない。いやー、うまいこと気を惹くなー。単行本が待ち遠しい！

新刊は、寸足らずジャケットというか妙に幅広の帯というか、どっちともつかぬ紙片を一枚纏つただけで（ホントの腰巻き？）、裸の本体むき出しで店頭に積み上げられた（講談社 二〇一三 装幀・関口信介、挿画・中川学）。

今どきの装丁は、ジャケットデザインで勝負するのが普通だと思うが、そんな配慮はない。その代わり、丸背ハードカバーの本体をカラー印刷で華やかに装い、ツヤツヤのコーティングを施している。これなら繙読中に手垢で汚すこともないわけだ。派手なジャケット群でひしめく我が書棚に挟まっても、沈み込んでしまう心配がない。蔵書家、読書家に優しい装丁？ 本書は、四六判七〇〇ページを超える大冊で、厚さが五センチ近くある。大向こうを狙って刊行される売れ筋新刊書の装丁としては久しく見かけなかった存在感があるではないか。うーむ、逆説的処理で一矢を放ったか。

華やかなジャケットが、手を変え、品を変えて妍を競い合う昨今だが、一皮これを取り去ると、白つ茶けた用紙に薄いインクでそつけないタイトルを記しただけの本体表紙が剥き出しになる。なんだか見ちゃいけないものを見た気分、ジャケットを剥かずにそのまま読み始めるが、手元が邪魔くさくて没頭できない。

大方の本がこうなつて久しい現状に、微かな涼風がもたらされたか？

■特集・第三一回日本・韓国大学出版部協会合同セミナー

コンテンツという宇宙——第三一回日韓セミナーに参加して

笹岡五郎

(大学出版部協会事務局長・専修大学出版局)

六月にソウルで開かれる日韓セミナーに参加することが決まると、私の手元にも、韓国側の翻訳原稿が届いた。タイトルがちよっと洒落ていて、「私たちが愛するものの未来」という。セミナーの発表者は、慶北大学出版部金容勳^{キムヨンスン}氏で、私は一読して、その論述の淵にある情緒の中に引き込まれるような気がした。どういうことかという、たとえば論文中にある次のような一文は、そのときの私の低調な気分につよく感応したのである。

「私たちがあまりにデジタルに縛られており、それに追い付こうとして、すべての力を消耗した……」

その当時、私には考えあぐねていることがあった。それは「学術書における電子書籍」ということである。職場では一年ほど前に電子書籍の製作を用意しかけたが、かんばしい進展はなく、そのうちに自分でもこの企画倒れに納得してきて、どうやら袋小路に迷い込んだような状態になっ

て、すべてが煮えきらず、そして「消耗」していた。コミックや娯楽小説の電子本が伸びていくのを横目に、どうしても学術書の電子化の「形（モデル）」が見えてこないのである。グローバルな出版社が電子ジャーナルと併立したeBookサイトを運営していることは知っていたが、日本ではまだそれがスムーズではない。私がイメージしたのは、ポーンデジタルで、本の構成単位が切り売りでき、書籍というよりは電子情報で、包括的な学術情報検索サービスが可能なプラットフォーム型のものである。すでに初期のものとして、紙本の版面がそのまま電子化された学術電子書籍はあったが、それは需要も少なく、どこからも読者の声らしきものが聞こえてこない。そのためか、ようやくEPUBフォーマットが主流になってきたところだった。固着した文字の連鎖がほどこけてきて、イメージの中で浮遊し始め、電子の本の形はますますバラけていった。

こうしてどうにも気分が晴れないまま韓国に行くことが決まったわけで、今回のセミナー主題は「出版の再解釈とデジタル時代の大学出版」であった。金氏の予稿にも韓国の市況が報告されており、セミナーではさらに細部にわたる事象が判然とするだろう。私はこれまで海外の合同セミナーに五回参加してきたが、いずれも印象の深い有益な経験だった。本稿ではとくに「電子書籍」に焦点を当てて、この一〇年ほどのセミナーの動きと合わせて考えてみたい。

好意の交流はいつか終わる

私はじめて大学出版部協会の海外セミナーに参加したのは、一九九六年一〇月である。ソウル明洞のロイヤルホテルから江原道の景勝地雪岳山^{ソルサ}にある雪岳教育文化会館までの八時間というバスの旅が、そのときの記憶に深い。日曜日の渋滞もあって、バスのエアコンが故障したための（と憶えているが）蒸し暑さと、途中休憩したドライブインの韓国風ランチ、それに行く先ざきで広がる全山の紅葉が今でも脳裡に灼きついている。この時のことは『大学出版』三二号にセミナーレポートとして書かせていただいた。

今それを読み返すと、バスの長旅に疲れた、ロープウェイで権金城^{ゴンナムシ}に登った、両国の会長が年のわりに頂上に先着した、などと紀行文ふうに綴っており、あとは、日韓の発表主題が離れすぎている、両国がお互いの出版環境の予備

知識を持つていないなどと指摘している。肝心のセミナー内容についてはさほど行数を割いていないのである。このころのセミナーは統一主題がなく、韓国側は「東アジア大学出版部の現実と課題」、日本は東海大学出版会・中陣隆夫氏による力のこもった「日本の学術出版——学術出版の勘定を誰が払うのか」で、厳密にいうとこの二つは論点にずれ違いの感があった。

この一九九六年は、日本の出版総売上が二兆六五六三億円という史上のピークに達した、いま思えば象徴的な年だった。翌年から売上が下落の一端をたどるのである。そうした不安の要素は実はすでに見え隠れし、バブル後の社会の不景気、若年層の活字離れ、windows 95によるパソコンブーム到来などが、再販制にまもられた出版業界を内外から揺さぶっていた。とくにインターネットの普及は社会現象にもなり、「オンライン出版」「eBook」などの言葉が出版用語に仲間入りし、先駆的な人びとの口に上った。

雪岳山セミナーの翌年は長野県で諏訪湖セミナーが開かれ、そのあとは北京、ソウル大学、二〇〇〇年の琵琶湖セミナーと続いていくのである。その間の統一主題をみると、「大学出版部の社会的役割」「経営・経理」「出版の採算管理」「学術出版の企画、本造り」などが並んでおり、このころは主題の中に電子書籍のデの字もないのである。電子が一気に開花し爆発したのは、翌二〇〇一年九月、上海外国語大学総合楼で開かれた上海セミナーにおいてであった。

このとき中国側は「伝統出版から現代インターネット出版へのビジネスモデル転換を論じる」(周蔚華氏、人民大
学出版社)、「インターネット出版の発展についての分析」
(周勁氏、北大方正電子有限公司)の二本の報告をした。
そして電子書籍をインターネット配信するという、画期的
な出版の方法に成功したことを宣言したのである。

北大方正というのは北京大学の電子系子会社である。中
国では国内景気の拡大と大学生増加という社会背景があつ
て、大量のテキストを生産しなければならない大学出版部
は紙資源のいらない電子書籍に着目した。それぞれ自社コ
ンテンツを北大方正に渡して、本の電子複製と配信を可能
にしたのである。語学テキストなら百万部、二百万部は当
たり前という鼻息の荒さで、韓国はそんな中国に羨望と共
感を隠そうとはせず、どうやら日本だけがその熱気につい
ていけなかったような記憶がある。

同じころ、日本の電子書籍熱はくすぶり続けていた。そ
の二年ほど前には、電子書籍の製作・販売の実証実験をす

本の歴史を考えてみよう

るといふ触れ込みで、大手版元とITメーカーが協同して
コンソーシアムを立ち上げた。実験が成功したら事業につ
なげていくという条件で、政府から百億円の予算がおりる
という話まであった。用意する電子書籍は五千タイトル。
書店の端末(二〇台ほど)でダウンロードし、該当書店の
ない地域では衛星から地上のCSアンテナにコンテンツを
配信するというものだった。が、結局事業の見込みは立た
ず、実験は中途半端な終焉をむかえ、団体は二年後に解散
した。再販制度と紙本の特性にどっぷり浸かった出版体質
では「電子書籍」という怪物に歯が立たなかったのである。

二〇〇一年の上海セミナーから一二年たつて、いま韓国
の電子出版はどうだろうかというのが、今回の渡韓の大き
な楽しみだった。結果的にこの私の期待は裏切られなかつ
たし、空虚は空虚として残った。金容勳氏の報告によると、
…韓国ではIT技術は発展しているが、電子書籍市場は

ローマ革命 (上・下)

―共和政の崩壊と
アウグストゥスの新体制―

ロナルド・サイム

逸身喜一郎、小池和子、

上野慎也、小林 薫、

兼利琢也、小池 豊訳

カエサル暗殺後の熾烈な
権力闘争を経てアウグス
トゥスの支配が確立する
「革命」過程を描いた古典
的名著。(全2冊)

A5判・定価各10,500円

中東国際 関係史研究

トルコ革命とソビエト・ロシア
1918-1923

山内昌之

トルコとソビエトの新国
家形成を描きながら、中
東の戦争と平和の問題を
歴史的に問い直す研究の
集大成。

A5判・定価17,640円

金融法講義

神田秀樹、神作裕之、

みずほフィナンシャルグループ
躍動する金融の法と実務
の「現在(いま)」を捉え
る！ A5判・定価4095円

明治哲学の 研究

―西周と大西祝―

小坂国継

日本哲学の始原である明
治期の哲学を解明する。

A5判・定価10,500円

【岩波現代全書】

農業と人間

食と農の未来を考える

生源寺眞一

食べることは生きること。
農業の〈現在〉を再考する。

四六判・定価2205円



岩波書店

東京・千代田・一ツ橋

〔定価は消費税5%込み〕

<http://www.iwanami.co.jp/>

いまだ横這いを続けている、九九年に設立された電子書籍会社ブックトピアが印税未払いなどで多額の負債を抱えて倒産した、IT技術自体は進展しているものの新しい読書をイメージさせる電子書籍のカタチはまだまだ見つからない、などである。その上で金氏は今後の方向性として、電子書籍時代の到来は否定できないし、それについて異論はないと述べた。

一方、日本側発表者の慶應義塾大学出版会小磯勝人氏は、国内電子出版のミクロな光の部分の一つ一つ丹念に拾いあげ、それを聴者の頭の中に丁寧に布置することで目的を達成した。といって電子書籍の未来を樂觀視したわけではなく、むしろ「変化の波に飛び込みつつ、次のステップを模索していくしかない」と戒めている。

電子書籍が人びとの注目を集めはじめてからすでに一年以上、その間になにがあったのだろうか。大学教材分野で有効な電子化が進展していたり、大学図書館が共同で学術電子書籍の利用モデルを実験したりしている。個々の事象はそうである。だが、全体ではどうか。私にはどうしても抜けきれない居心地の悪さがあって、その本質を問いたいのである。

どうやら私たちは出版史上で思いがけない位置に立っているのかも知れないという気がしている。私たちは紙の本があつて、それを受け継ぐもの、その先に進化していくも

のとして電子書籍をとらえていないだろうか。しかし両者が素材も制作工程も利用法も本質的にちがうことは明らかである。一五世紀にドイツの印刷革命があり、それによって本が劇的な変化と普及をとげたといわれる。それ以前、八世紀頃には中国に木版印刷があり、そういった印刷術の以前に写本があり、冊子本の以前に卷子本がある。そうして本の歴史をさらに遡っていく、行き詰めたところに、言葉と文字（コンテンツ）の宏大な海が広がっているのだ。いま電子本を考えると、私たちは、そのコンテンツの源の広がりの中に立っていないだろうか。二〇一三年の現在、あるいは電子本の歴史においては、グーテンベルクは未来に現れるのかも知れない。そのように考えてみると、いま感じている居心地の悪さの由来がすこしわかるような気がしてきた。

今回のセミナーで感じた混迷の感覚は、私たちが今向きあっている電子書籍が、これまでの伝統的な出版や編集者をもつ経験や知恵だけでは十分でないことを物語っている。今後私たちはグローバルな出版社がすでに立ちあげているビジネスモデルに添って進んでいくのだろうか。現在が電子書籍の歴史の始まりにあるとして、これからの長い歴史の中で、十年二十年の束の間、のときが費やされるべきだとしても、これが人間があたりしく獲得した書籍だと言えるまでに、さらに想像をこえる永い時間を待たされないことを祈っている。

■特集・第三一回日本・韓国大学出版部協会合同セミナー

デジタル化の潮流に大学出版会はどう向き合っていくべきか

小磯勝人

(慶應義塾大学出版会)

はじめに

大学に軸足を置いている大学出版会は、学術専門書の制作と授業で使用されるテキストの制作という、大きくふたつの役割を担っている。電子書籍の普及といった出版業界の動向、学術コミュニケーション流通の変容といった高等教育界の動向、そのどちらも今後デジタル化の潮流にどう向き合い、どう適応していくべきかという点が大きなテーマになっている。本稿は、「第三一回日本・韓国大学出版部協会合同セミナー」の主題発表に向けて二〇一三年五月に執筆した原稿をベースに、その後の動向を加筆・修正したものである。

高等教育の変化と学術出版

私たち大学出版会にとって非常に密接な関係にある大学

の現状を概観してみよう。二〇〇〇年代に入ってから急速に進展した情報技術によってオープンアクセスや電子メディアが普及・拡大していくとともに、学術コミュニケーションのあり方が大きく変化してきた。そして、学術情報基盤の整備に関して、研究・教育成果の電子化とオープンアクセスの推進、大学等における機関リポジトリの構築といった「知識インフラ」を統合的に展開していくことが求められるようになっていく。

さらに、デジタル化の潮流は大学図書館のあり方をも変えようとしている。「大学図書館の整備について（審議のまとめ）」——変革する大学にあって求められる大学図書館像」（一〇年十二月、文部科学省・科学技術・学術審議会報告）では、大学図書館の学習支援および教育活動への直接的な関与（旧来の紙書籍の集積場所から学生の学習のためのスペース・ラーニング・コモンズ）を提供し自律的な

学習を支援することや、知識の創造を促すことを目指す図書館の新たな学習空間づくりを目指すこと）が提言され、合わせてデジタル化に即した学術書等のコレクションを構築することや、多様な学術情報への的確で効率的なアクセスを確保することも、大学図書館の重要な機能・役割のひとつとされている。

こうした動向のなか、大学図書館において電子学術書を利用者に提供しようという実験的な取り組みがスタートしている。慶應義塾大学メディアセンター（図書館）を中心とする「大学図書館電子学術書共同利用実験プロジェクト」がそれだ。同プロジェクトは、「学生等が利用（閲覧・貸出）できる、電子学術書プラットフォームを作り、利用者からの反応と評価を元に、今後の電子書籍化の方向性を探っていくことを目的として、一〇年からパイロット実験を開始。一二年度から名古屋大学や神戸大学等が参加し、一三年度現在、八大学の参加の下で実験が推進されている。

同プロジェクトを通じて、コンテンツを提供している学術出版社は、これまでに存在する NetLibrary（紀伊國屋書店）や eBook Library（丸善）といった図書館を対象とした電子書籍の売り切りモデルではない、今後の電子学術書の利用・販売に向けたビジネスモデルを構築するための議論を開始している。その主たるマーケットとして想定する大学図書館も、和書の電子学術書を拡大・発展させていくために自らがどのような役割を果たすべきか、協力を惜

しまないことを約束しているが、その一方で、大学図書館としては資料費予算が年々縮小していることも事実である。今後、研究成果を発信するにあたって、そのコスト負担をだれが、どのような形でいくべきなのか、という究極の課題に直面することは間違いないだろう。

以上、デジタル化の潮流が従来の学術出版モデルに大きな影響を与え始めている背景・事例を見てきた。こうした状況下で、大学出版会には、電子書籍をうまく活用して極力在庫を持たずに POD (Print On Demand) でも対応できる態勢を構築する、あるいは一冊の書籍を節や部、章ごとにばらすことによって、異なる書籍のマイクロ・コンテンツを串刺しにした新たなコンテンツとして再構成するといった可能性を模索するなど、紙媒体では難しかったことに対応していく知恵こそが求められている。まさにいま、大学出版会は、学術出版あるいは出版サービスの今後のあり方を再考していく岐路に立っていると言っても過言ではあるまい。

電子学術書の効果的な活用方法を探る

東京大学では一三年の冬学期に、附属図書館が主体となつて開講する「全学自由研究ゼミナール・未来の書物の未来」という科目のなかで、電子学術書活用の実証実験を行っている。前記の「大学図書館電子学術書共同利用実験プロジェクト」のプラットフォームとしても使われている電

子書籍配信サービス「BookLooper」を使って、東大で教鞭をとった南原繁や丸山眞男の著書などを購読。担当の石田英敬氏（附属図書館副館長／大学院総合文化研究科教授）、阿部卓也氏（大学院情報学環特任講師）らは、「学生や教員が電子書籍上で仮想的に書き込んだメモや傍線などをそれぞれが共有することで、だれがどのように書籍を読みメモを書き込んだのか、あるいはその記述を正しく理解するためにはどのような背景情報を知っておかなければならないか、といったことなどをネット上で共有可能にすることで、書籍を読み解くという学習方法の価値を再定義したい」と狙いを話す。

この実証実験は、附属図書館を中心に学内の知識基盤を再整備するプロジェクト「東大新図書館計画」の一環として行われているものだが、その背景には一三年五月に開催した「立花隆と重ね書きの本棚」という総合図書館企画展があるという。そもそも専門書籍とは、文字通りに書かれていることだけではなく、積層した言説の厚み、知のネット

トワークのなかでの内容を把握しなければならないものであり、そのためには本を個人が所有し、自由に注釈や感想を書く、線を引く等、「アノテーション」を書き入れるもの。企画展では、利用者に自由に書き込みをしてもらうことによって、他人の書き込みには意外な発見があることを再認識するなど、本の新しい読み方への期待を検証した。

今回の実証実験は、少人数のゼミレベルで使用する専門書籍をデジタルコンテンツとして利用し、アノテーションを共有。アカデミックな文脈でどのように活用できるか（高度な読みや知識の形成を支援する等）を検証するための実証実験と言えよう。

このように、電子学術書の具体的な活用方法を検証してもらうことによって、私たち大学出版会にとっては既刊書の電子化を推進する動きにつながるだろうし、「いかに読むべきか」「いまなぜ読む価値があるのか」といった情報と結びつけることによって新しい読者との出会いにもつながっていく可能性を秘めている。研究・教育分野における

ゾミア

脱国家の世界史

スコット インドシナ半島奥地の民族文化は、国家回避戦略だった。自由民たちのグローバルヒストリー。佐藤 仁 監訳 ¥6720

デモクラシーの生と死

〔全2巻〕

キーン その起源を問い直し、欧米中心主義から脱却、史実と洞察で世界史として描く大著。森本 静訳 猪口 孝解説 各¥6825

ホロコーストとポストモダン

歴史・文学・哲学はどう応答したか
イーグルストーン いかに読まれ記憶されるべきか。証言から哲学までホロコースト後の表象を徹底解説。田尻・太田訳 ¥6720

数値と客観性

科学と社会における信頼の獲得

ポーター なぜ「数値は正しい」のか。ローカルな知識vs.標準化。客観性の政治と文化に迫る科学史＝科学論。藤垣裕子訳 ¥6300

化石の意味

古生物学史挿話

ラドウィック 生物の進化と絶滅、神と自然、地球の歴史の解釈の歴史を第一人者が描き読み継がれる名著。菅谷・風間訳 ¥5670

ニュルンベルク裁判の通訳

ガイバ 同時通訳の原点を精確に論じた唯一の書。方法の議論、通訳者の履歴と人物、歴史の意義を検証。武田珂代子訳 ¥4410

歴史学の将来

ルカーチ 発生から変遷、歴史ブーム、小説との相違を論じ、人文学危機の現代に知恵を授ける。村井章子訳 近藤和彦監修 ¥3360

東京文京本郷 5丁目 32-21

tel. 3814-0131 fax 3818-6435 (税込)
http://www.msz.co.jp

電子学術書は、広く一般に言われる「電子書籍」とは一線を画し、デジタルメディア、デジタルコンテンツとしての活用が期待できることをよく理解しておきたい。

大学の教育改革と電子教材

大学による電子教材化への取り組み

大学出版会の果たす役割のひとつに、教科書・教材の制作があるが、ここにもデジタル化の潮流が大きな影響を及ぼしている。一三年四月より日本出版販売（日販）による「大学向けの学術・専門書デジタル配信サービス」が開始された。同サービスは、京都造形芸術大学通信教育部芸術教養学科の学生に向けて総合教育三〇科目で使用する市販書籍のタイトルをデジタル化し、PC・スマートフォン・タブレット端末向けに提供するもの。電子書籍市場が拡大するなかで、教育現場でも、電子書籍や電子テキストの存在が増しているという事例であろう。

もうひとつ、慶應義塾大学湘南藤沢キャンパス（SFC）においても、教材の電子化を図るための取り組みが始まっている。SFCでは、〇二年からウェブ上の「学生による授業評価（授業調査）」ならびに授業改善のためのツールとして「SFCSFS (Site For Communication among Students, Faculty and Staff)」と「コミュニケーションサイトの運用を開始している。同サイトには、授業に関するコミュニケーション（授業調査や日常的な授業関連情報の

提供・入手等）や卒業までの学習・研究プランに関するコミュニケーション（履修プランや「MY研究プロジェクト」に関わるコミュニケーション等）を支援する機能があり、教育環境・内容の充実を担っている。今回、一五年にキャンパス開設二五年を迎えることを機に、全開講科目の教材をSFCSFS内で提供することを目標に、教材の電子化プロジェクトがスタートしている。

MOOCの台頭

インターネットを通じた教育（e-learning）と電子教科書は、非常に親和性が高いことは容易に推察できるだろう。大学出版会としては、これまでの紙媒体を制作する際に培ってきた経験を生かして電子教材づくりに積極的に関わっていくべきではないだろうか。具体的に言えば、シラバスをはじめ、授業ビデオと講義資料（Lecture Material）、参考文献リスト等をパッケージ化していくということである。教科書を単体として考えるのではなく、そのリッチ・コンテンツとして大学の講義ビデオ・資料とリンクする形態を目指すということである。

インターネットを介したオープン教育は、〇三年にマサチューセッツ工科大学（MIT）が開始したオープンコースウェア（OCW）に端を発し、その潮流が発展・拡大してMOOC（Massive Open Online Course）へとつながってきている。実際、東京大学は一三年九月から

「Coursera」が提供するサービスを使って英語で講義の配信を始めた。東大は国際的に通用する大学であることをアピールすると同時に、「反転学習」のための実証実験と位置づけており、将来的には学内の授業（対面授業）のあり方を変えることをも視野に入れている。また、京都大学も一四年の春から「edX」に参加して講義の配信を始めることを表明しているし、一三年一〇月には「日本オープンオンライン教育推進協議会（JMOOC）」も誕生。こうしたオンライン講座の取り組みは、対外的な広報の役割を果たすだけではなく、大学の教育改革の方策のひとつでもある。今後、オンライン講座が普及していけば、必然的にそれに伴う講義資料や教材制作のニーズも高まってくるはずだ。

おわりに

デジタル化の潮流に大学出版会はどう向き合っていくべきか。現段階で絶対的な解は見当たらない。しかし、大学

に軸足を置く大学出版会としては、大学で起こっている学術コミュニケーションの変化や大学教育改革の流れについていかなければならないし、変化の波に飛び込みつつ、次のステップを模索していくしかない。大切なことは、従来の紙媒体に固執するのではなく、新たな教材や学習環境の創出を大学とともに担っていくという方向性なのではないだろうか。それが大学出版会にとっての責任のひとつでもあるのだから。

同じ大学出版会と言っても、当然、状況は各社によってそれぞれ違う。各社の置かれた環境下で何ができるか、どのような事業に舵を切っていくかという知恵こそが必要となる。これからの大学出版会は、人の価値観の変化、それを後押しする技術の変化がこれまでにない大変革を起こすかもしれない、そういう時代に置かれていることを自覚し、コンテンツ・プロバイダーとしてデジタル化に対峙する覚悟と創造力が求められるということなのではないだろうか。

新刊案内

宮野啓三 著

南・北アメリカの比較史的研究

七九八〇円

——南・北アメリカ社会の相違の歴史的根源

南・北アメリカの対照的な相違の根源は何か、新大陸奴隷制論争に刺激を受けアメリカ史をラテンアメリカを含めた地域として考察。

オイゲン・ウオールハウプター 著／堅田 剛 編訳 九二四〇円
ゲートとサヴィニー —— 詩人法律家／続

文豪ゲーテは大法学者サヴィニーの中に自分の似姿を見出した。彼らはともにドイツ領邦の大臣を務め、82歳の生涯を送る。

小泉康 著

国際強制移動とグローバル・ガバナンス

九〇三〇円

難民・強制移動民の平均滞留年は18年に及ぶ。難民は如何なる目的・願望を持ち、国家は如何なる条件があれば難民を受け入れるのか。

改訂版
アフリカと政治 戸田真紀子 著 二五二〇円

紛争と貧困とジェンダー

わたしたちがアフリカを学ぶ理由
日本社会が真に理解すべき援助や交流のあり方を探る格好の一冊。

御茶の水書房

〒113-0033 東京都文京区本郷5-30-20
電話03-5684-0751
<http://www.ochanomizushobo.co.jp/>

私たちの皆が愛するものの未来

金容勳 (慶北大学校出版部)

ある人はキンドル (Kindle) が本を燃やすことになるだろうと述べています。また、ある人はキンドルが人々の読書熱を刺激するだろうと述べています。キンドルに象徴される電子書籍は、学術出版に携わる私たちにとって何なのかでしょうか。いまのところ、この質問にあまりに答えることができません。しかし、いま、全世界の出版界がデジタル化に大きな関心を寄せていることは否定できません。

ここでは、韓国の電子書籍の市場状況と出版関連法規などを説明した後、韓国の大学出版部が進むべき道を模索してみたいと思います。

韓国電子書籍市場の概況

IT技術の持続的な発展にもかかわらず、韓国の電子書籍市場は横這いを続けています。技術的な問題をはじめ、

政策と秩序の不完全さなどが複合的に絡み合い、市場の成長を妨げたからです。何よりも、ブックトピアの作ったデイストピア (Dystopia) が韓国出版界に大きなトラウマを残しました^(*)。

しかしここ数年、特に二〇一〇年から国内でも変化の兆しが見え始めてきました。モバイル技術が商品化され、電子書籍端末・スマートフォン・タブレットなどが急速に普及したためです。さらに、グローバル企業のローカル市場進出の影響も無視できないようです。現在、多くの韓国企業が電子書籍の流通市場に参入していることから、Googleをはじめとするグローバル企業の進出により、市場競争は本格化しています。

このような状況変化のなかで、韓国の出版社も個別に、あるいは共同で電子書籍を流通させる可能性を探っていますが、その動きはまだそれほど活発ではなく、紙の本では

江戸の暮らしの 考古学

古泉 弘編 江戸城・下水道網・ゴミ溜め…衣食住・なりわい…。地中に埋もれた江戸っ子の生活がよみがえる。
3990円 [内容案内]送呈

女性官僚の歴史

古代女官から現代キャリアまで
総合女性史学会編 歴史研究の成果から、女性と社会をめぐるとの今日的課題に迫る。2835円

若人に語る 奈良時代の歴史

寺崎保広著 2940円
教科書と一味違う古代史の魅力、独自の視点でいきいきと再現したユニークな歴史講義。

日本近代史を学ぶための 文語文入門

漢文訓読体の地平
古田島洋介著 語義、語彙、文法など、漢文訓読体を読み解く術を基礎から解説。2940円

史書を読む

(読みなおす日本史)
坂本太郎著 古事記・吾妻鏡・太平記…。碩学が薦める、歴史書29編の楽しみ方。2205円

現代日本の民俗学

ポスト柳田の五〇年
福田アジオ著 柳田後の歩みをたどり、学問状況を検証、民俗学の自立を考える。3675円

日記を兼ねた歴史小百科
歴史手帳
2014年版 900円

吉川弘文館

〒113-0033 東京文京区本郷7-2-8
電話03-3813-9151 / 価格5%税込

実現できない電子書籍ならではの利点も生かし切れていません。電子書籍プラットフォーム事業は「デジタルコンテンツ(電子書籍)の購入・販売に関する一切のサービスを提供する事業」です。その意味では、ユーザーの利便性はもちろん重要ですが、それよりも重要なのはコンテンツそのものです。しかし、コンテンツ生産の軸である出版社がまだ消極的なので、最終的に、読者が必要とする質の高いコンテンツを読むことができない状況になっています。したがって、いまの韓国の状況は次のように例えられるでしょう——「四通八達の道路は既に建設されたものの、道路の上を走る高性能の車は、まだ作られていない」。

似たような状況ともいえるのが音楽産業ですが、電子書籍の前にデジタル化が進んだ韓国音楽市場の見通しは、まだあまり明るくありません。音楽が物性を失い仮想空間を漂うことになった結果、コンテンツの創作基盤が急激に悪化したからです。これは、法と政策が技術と市場の発展に適時に追いつけなかったためです。すべてのデジタル的な

ものが世界を、とりわけ経済を救うという幻想、そうした幻想に由来した法と政策が、肝心のコンテンツ生産者を救えなかったのです。電子書籍市場が開かれる現在、こうしたことが再び繰り返されることはないでしょうか。この確認をするため、まず韓国の出版の主な法規について、最近の改正事項を中心に簡単に説明します。

〔著作権法〕

韓米FTA締結に伴う後続措置として二〇一一年に改正され、二〇一二年三月一五日に施行された現行の「著作権法」は、第五七条から第六二条にかけて「排他的発行権」に関する事項を扱っています。そのなかで新たに定められた第五七条第一項の内容を紹介します。

第五七条(排他的発行権の設定) ①著作物を発行したり、複製・転送(以下「発行等」という。)する権利を有する者は、その著作物を発行などに利用しようとする者に対して排他的権利(以下「排他的発行権」と

し、第六三条の規定による出版権を除く。以下同じ）を設定することができる。

この条項は、コンピュータプログラムの発行などに限って認められた排他的発行権制度を拡大したものであり、電子書籍についてもこの条項に基づいて排他的権利の設定が可能になりました。これで初めて第三者への対抗力が生じたこととなります。この法律はまた、「公開に関する特例」(第六三条)を置き、紙の本の出版権の設定については別に規定していますが、内容はあまり変わっていません。この法律によると、紙の本の出版は「複製・配布」であり、電子書籍の出版は「複製の転送」になりますので、電子書籍は本のサブカテゴリーではなく、別々のコンテンツという印象です。

「出版文化産業振興法」

二〇一二年一月に一部改正され、同年七月に施行された現行の「出版文化産業振興法」は、第二二条(出版物定価表示及び販売)から再販売価格維持制度、すなわち「書籍定価制」の問題を扱っています。そのなかから第三項及び第四項の内容を紹介します。

第二二条③出版物を販売する者は、出版物の「独占規制及び公正取引に関する法律」第二九条第二項の規定による再販売価格維持の対象著作物に該当するとき、は、定価で販売しなければならない。ただし、出版物

を販売する者は、読書の振興と消費者保護のために自ら提供する割引方法により、出版物の定の一〇%以内を割引して販売することができる。〔二〇一二年一月二六日改正、二〇一二年七月二七日施行〕
④次のいずれかに該当する出版物については、第三項を適用しない。

1. 発行日から一八ヶ月を経た出版物
2. 図書館や社会福祉施設で販売している出版物
3. 著作権者に販売する出版物
4. 発行日から一八ヶ月を経た紙の出版物と内容が同じ電子出版物

5. その他大統領令で定める出版物

上記条文でわかるように、この条項だけでは「書籍定価制」の対象書籍を正確に知ることができません。ドイツのように別の法律として独立しているのではなく、いくつかの条文の形式で分散しているからです。したがって、「書籍定価制」の対象書籍を正確に知るためには、「出版文化産業振興法」だけでなく、「独占規制及び公正取引に関する法律」第二三条と第二九条、同法施行令の第三六条と第四三条、そして公正取引委員会告示の第二〇一一年一九号「再販売価格維持行為が許可される著作物の範囲」、第二〇〇九一―一号「景品類の提供に関する不正取引行為の類型および基準」まで確認する必要があります。

これらの事項をすべて総合すると、韓国で「書籍定価制」

藤原書店

セレクション 竹内敏晴の「からだと思想」(全4巻)

第1巻 主体としての「からだ」(発刊)

「からだ」から「生きる」ことを考え抜いた哲学者の精選集。《寄稿》福田善之(推薦) 鷲田清一/内田樹ほか 3300円

警察調査

創刊と世界文学

M・ダリュセック 表現の庄殺など創造行為の根幹に関わる、「彫削」という事象を徹底追究、高頭麻子訳 4200円

内務省の政治史

集権国家の変容

黒澤良 1873年設置から1947年解体まで、日本の行政の中枢に君臨した内務省とは何だったのか。 4600円

全釈 易経(全3巻)

黒岩重人 四書五経の筆頭「易経」。本書は、易の考え方の根本から、原文・読み下し・語注・釈文で構成する決定版! 各3800円

岡田英弘著作集2(全8巻)

世界史とは何か

13世紀モンゴルから、世界史が始まった。中央ユーラシアの「草原の道」が、現代の世界をも動かしている。《月報》三浦雅士/川田順造ほか 4600円

●われわれにとって富士山とは何か?

学芸総合誌
季刊

歴史
環境
文明

vol. 55 2013年秋号

(特集) 今、なぜ富士山か

A・コルバン/永六輔/金子兜太/川勝平太/黒岩祐治/高銀/近藤誠一/篠田正浩/安田喜恵/山折哲雄/渡辺豊博ほか

小島宏記/菊池直/野口武彦/松浦玲/宮脇淳子/川田順造/宮崎正弘/倉山薫/新保祐司/M・ペロー/大田堯/川勝平太/マハディール/東郷史成/山田登世子/三紗ちづるほか 3600円

月刊
機

B6変32頁 10月号 No.259

A・コルバン/金子兜太/宮脇淳子/山田國廣/片岡剛士/田中秀臣/大田堯/内田義彦/菊地大介/安里英子/加藤晴久/粕谷一希ほか

年間購読料2000円(送料込) ◎見本誌・ブックガイド呈 ※表示価格税抜

〒162-0041 東京都新宿区早稲田鶴巻町523
振替 00160-4-17013 TEL.03-5272-0301
ホームページ http://www.fujiwara-shoten.co.jp/

の対象になる著作物は、実用的な書籍や小学生を対象とした学習参考書を除くすべての出版物のうち、発行日から一ヶ月が経過していない出版物(電子出版物を含む)であり、著作権者・図書館・社会福祉施設で販売している場合を除き一〇%以内の割引販売が可能です。

「付加価値税法」

出版関連法規のなかで「書籍定価制」に次いで問題となっているのが、書籍に付けられた「付加価値税率」だと言えます。現在の韓国の「付加価値税率」は一〇%ですが、「付加価値税法」第一二条と「付加価値税法施行令」第三二条に規定される書籍や電子出版物はすべての税金が免除されています。

結局、韓国の出版関連法規は、電子書籍の排他的発行権の新設、「付加税」の免除等を介して、電子書籍市場の早期定着と活性化を誘導していることが理解できます。デジタル音源市場の誤った前史を繰り返すことなく、新

たな市場のための法的根拠を用意したという点では非常に良かったのですが、コンテンツ生産基盤の保護という面ではまだ補完すべき点があると思います。「書籍定価制」がその代表的なケースです。「書籍定価制」の現行法規は、例外的事項の範囲が過度に広いうえ、マイレージ・割引クーポンの提供など実質的な追加割引を可能にしており、出版界を攪乱しているという批判を受けています。現在、韓国で「書籍定価制」の適用を受けている本は全体の流通書籍の二一・八%に過ぎません。また、発行日から一ヶ月が過ぎた既刊書の場合、投げ売りが行われる場合が多く、出版社や書店は経営の難しさに頭を悩ませています。

デジタル時代の「共同出版」

紙の本と比較すると、いままでに韓国で出版された電子書籍の品質はそれほど高くありません。まだ技術的に補完すべき点が多いと思います。しかし、電子書籍時代の到来は否定できない事実です。出版業界のなかには、今後五年

以内に韓国全体の出版市場の七〇%を電子書籍が占めると見込んでいる人もいます。私はこの分野についてあまり知識はありませんが、大学出版部においても電子書籍が占める割合が急増することについて異論はありません。国内では既に三〇〇万台以上のスマートフォンが普及しており、携帯電話会社のモバイルサービスの能力も世界的なレベルに達しています。二〇一四年からデジタル教科書が導入されれば、既に三〇〇万台以上普及しているタブレットの普及率はさらに高くなります。学術書や教材はデジタル化という時代の流れに乗るほかにありません。特に教材の場合、どこかが積極的に取り組み始めるならば、競争は瞬間に激化するでしょう。デジタルは紙の本より高度であり、効率的・経済的という考えが教材の電子書籍化をさらに煽るものだからです。そして、このような状況にすぐに対応できない場合は、大学出版部は大学内の著者たちからその存在価値を疑われるかもしれません。

現在の韓国大学出版部の電子書籍出版は、昨年のセミナーで李鍾伯先生が発表されたように、まだ絶版書籍や既刊書を中心に行われており、技術的な面でも簡易なレベルに留まっています。このような電子書籍は、従来の書籍の消費スタイルの延長が主な目的です。しかし昨年のセミナー後、インタラクティブなエプブック (App-Book) の出版も行われ、外国語研究・教育の分野で確立した地位にある韓国外国語大学出版部は、マルチメディア機能を強化したイ

ンドネシア語会話教材をエプブックとして出版しました。

韓国外国語大学出版部以外の大学出版部の電子書籍出版が活発ではない理由は、一般の商業出版社の場合と同じです。具体的には、DRM、制作および流通の汎用性、デジタルへの変換過程で発生する技術的な難点と、それによる品質の低下、コスト負担などの問題です。さらに、韓国の各大学出版部の現在の力量ではこのような状況を克服するのは難しい状況です。いくつかの大学出版部を除けば、新たな事業分野に投資する余力がありません。

そのため私は、大学出版部協会として電子書籍共同出版を提案したいと思います。一般読者を対象に、さらに高品質の電子書籍を二、三点ほど出版することはできないでしょうか。お互い協力すれば原稿の確保に大きな困難はないでしょう。費用は参加する各出版部が分担することを原則としますが、協力校には利益の一部を分配する方法をとるならば、負担を大幅に軽くすることができます。

共同出版には利点があります。まず、共同作業を通じて経験を蓄積し、共有することができます。また、協力を通じて技術面だけでなく内容面でも高いレベルの電子書籍を出版できれば、新たに発足するフォーラムの地位を高める良いきっかけになるでしょう。そして何よりも、電子出版に消極的であるという大学出版部のイメージを拭うことができます。電子書籍ゆえ物流・営業などの面でも有利な点があると思います。

いま、私たちは「グローバル・デジタル」が「ローカル・アナログ」を追い立てる時代のなかにいます。前者は優れ、後者は劣るように感じられますが、実際にはそうではありません。両者は対立的な関係ではなく、相互補完的な関係にあるだけです。私たちがあまりにもデジタルに縛られており、それに追い付こうとしてすべての力を消耗したため、残りの一方を見ていない気がします。宣伝・広報を例に挙げてみましょう。デジタル時代らしく、いま、私たちはホームページ・ブログ・ツイッターなどで派手にプロモーションしますが、出版界全体の利益はむしろ減少しました。いつでもどこでも本を読むことができるU-Book (Ubiquitous Book) の時代ですが、一般の人々の読書時間はむしろ減少しました。Kindle)ではなく、読書という行為を忘れてしまった状況が問題です。

そこで、大学出版部は「(デジタル)プロモーション」ではなく「(アナログ)提案(プロポーズ)」を行ってみてはどうでしょうか。不特定多数を相手にするプロモーション

とは異なり、プロポーズは相手を明らかにする必要がありますが、まず、政府を相手にプロポーズするのです。同じ大学機関である図書館の場合には、「図書館法」などに続き、現在の「大学図書館振興法」まで発議されている状態です。大学図書館の振興よりも急がれるのが大学出版部の振興ですから、政府には大学出版部の存在価値を高める宣言をしてほしいと思います。

(*)ブックトピアは、主要出版社の出資により一九九九年に設立された韓国の代表的なブックサービス会社でした。紙の本を電子書籍化して流通させるという方針のもと始めたものの、不況などにより二〇〇〇年代半ば以降採算が悪化、不透明な著作権管理などもあり、未払い著作権料五八億ウォン、負債九五億ウォンを抱えて二〇〇九年に倒産しました。

「附記」本稿は『第三回日本・韓国大学出版部協会合同セミナー』に掲載された金容勳「私たちの皆が愛するものの未来」の一部を抜粋し、訳文に若干加筆修正を加えたものである。

砂川事件と田中最高裁長官

米解禁文書が明らかにした日本の司法
布川玲子・新原昭治【編著】
1960年安保改定交渉の山場に出された砂川事件伊達判決は、米国にとって途方もない脅威だった。極秘だった新資料によって裏舞台を暴く。 ■2,600円(税別)

日本降伏

迷走する戦争指導の果てに
綱織 厚【著】
戦前、日本はアジア太平洋戦争に突き進み、1945年8月、「降伏」に至った。その過程で何があったのか。政治・政治指導の実態を明らかにする。 ■2,200円(税別)

日韓の現代史と平和・民主主義に思う

両国の支配勢力の誤った歴史認識を超えて
韓 勝憲【著】
韓国民主化実現の中心となり、金大中政権を支えた著者が韓国、そして日本の民主主義と両国の過去、現在、未来を語る。 ■2,500円(税別)

社会的選択理論への招待

投票と多数決の科学
坂井豊貴【著】
多数決には欠陥がある。より適切に人々の意見を集約するルールはあるか。それを探る理論を、改選論などにも触れながら案内する。社会的選択理論の決定版入門書! ■2,400円(税別)

神の素粒子ヒッグス

究極の方程式はどう創られたか?
小林富雄【著】
2013年度ノーベル物理学賞につながるヒッグス粒子の発見。究極の方程式を丹念に読み解きながら、素粒子物理学の到達点を見える。 ■1,600円(税別)

古都がはぐくむ現代数学

京大数理解析研にどう人びと
内村直之【著】
超関数の理論、ABC予想、伊藤の確率微分方程式……京都の数学研究所を中心舞台に、日本の数学者たちが「新たな数学を生み出す現場」を生きて描く。 ■2,200円(税別)



日本評論社

〒170-8474 東京都豊島区南大塚3-12-4
TEL: 03-3987-8621 <http://www.nippon.co.jp/>

国際マーケットへの情報発信

― 第六回フランクフルト・ブックフェア報告

井土純子

(武蔵野美術大学出版局)

第六回フランクフルト・ブックフェア(FBF、二〇一二年一〇月一〇日―一四日)は世界一〇〇カ国以上、七三〇〇社が出展。講演会・セミナーなどのイベントは三二〇〇以上、来場者は約二八万人。伝統・規模とも最大級の海外ブックフェアに「出版専門家」として初めて訪れることになった。

FBFの会場は、敷地内に一二ある建物のうち八つの建物を使用しているが、国際交流基金(基金)と出版文化国際交流会(PACE)^(ペイス)共同の日本ブースがある六号館二階には、中国、韓国などのアジア諸国やヨーロッパの一部の出版社ブースがある。日本ブースは書籍を展示・紹介する「日本の総合的な情報センター」だ。ここで出展管理、来場者対応するのは、PACEの佐藤佳苗次長、基金ケルン日本文化会館の高羽洋充副事務局長、日本文学出版交流センターの館野純子プロジェクト・ディレクター・理事、現地大学生の那須拓海さんをはじめとする計五名。私以外の全員が語学堪能、経験豊富なスタッフという恵まれた環境だった。

日本ブースの展示書籍総数は四九三点。日本のさまざまな出版社の和文・欧文の図書が展示された。大学出版部協会の二三出版部からは四一点の出展があり、その書籍にはPACEでご用意いただいた丁寧な英文の説明が添えられ、日本語が読めない人でも内容がわかるように工夫がなされていた。日本ブースには出版梓会、自然科学書協会の団体、岩波書店、文藝春秋、鹿島国際著作権事務所、ハースト婦人画報社の棚もあり、右の四社には商談スペースが設けられていた。単独ブースで出展している日本の出版社・団体は三四社五団体。講談社、小学館、日本著作権輸出センター、デイスカバー21、別の建物では日本ユニ・エージェンシー、グラフィック社、ピエ・ブックス、Tuttle Publishing など。会場は広く、そのほとんどを見学することはできなかった。

朝九時のチャイムとともに最初の三日間、ビジネスデーがはじまる。世界各国の出版・書店・図書館関係者、版權エージェントたちが日本ブースに情報を求めて絶えず訪れ、つたないながら案内とプロモーションを行った。理工書や自然科学書などのジャンルで版權の売り込みのため、大学出版部協会加盟校の出版書籍への質問もあり、スタッフに通訳してもらいながら紹介した。ちなみにビジネスデーの共通言語は英語であるが、ドイツ、フランス、スペイン、中国語まで話せる国際的ビジネスマンが語学不能の私に業を煮やし「来年は日本語をマスターしてくる」と言ったので、基金が用意していた「日本語能力試験」のチラシをすかさず渡す一幕もあった。



*BOOKS FROM
JAPANESE
UNIVERSITY
PRESSES*
発行：大学出版部
協会 2013年3月
(A5判、52頁、
頒布無料)

開催四、五日目は一般客が訪れる一般デーだ。日本文化や日本語などについて熱心な質問があった。モヒカンのドイツ青年とブルーハーツの「リンドリンド」を熱唱したのは良い思い出。イベント会場ではコスプレ大会が開かれており、漫画やアニメの登場人物に扮した人々が展示本を購入したいと日本ブースに訪れたがF B Fの制約のため販売が困難であり、代わりにフランクフルト市内にあるOCS^{オージェス}を紹介した。フランクフルトOCSは、日本の書籍を専門的に販売している貴重な書店だ。和書の販売状況を調べるために訪問したが、約四〇〇〇冊ある書籍売り場には文芸書や雑誌、料理などの実用書ばかりで学術書はほとんどなく、流通の難しさを目の当たりにした（残念ながらOCSは二〇一三年三月にフランクフルト、デュッセルドルフ店ともに閉店）。

その頃、大学出版部協会では五〇周年記念事業のひとつとして英文図書目録*BOOKS FROM JAPANESE UNIVERSITY PRESSES*を発行する準備をしていた。これは「日本に関する本・おすすめの本」をテーマに国際的に通用する米国議会図書館の書籍分類コードを用いて一六〇冊（和書・洋書）を紹介する試みだ。諸外国で購入できる方法として、一〇〇件におよぶ日本の書籍取扱店（店舗、取次、営業所）を掲載、二〇一三年三月に刊行した。慣れない英文での目録作りは想像以上の苦労があったが、完成にたどり着いたのは、大学出版部協会の営業部会、国際部会と翻訳会社の協力のもと、F B Fで必要な情報を調査しながら多くの出版関係者に直接出会い、国際社会に対して日本の学術図書の情報を発信し続けることの重要性を強く実感したからだ。

刊行後はF B Fで知り合った方をはじめ、基金の海外事務所、P A C Eを通じて世界中のブックフェアで配付されている。また海外で日本の書籍取扱店、アメリカ大学出版部協会、各学会の会場などで紹介され、世界各国の読者に大学出版部協会の書籍情報を発信することができた。

私にとって初めての海外ブックフェアは緊張の連続であったが、この経験は今後、国際マーケットを意識するのに大変有意義であった。

最後になったが、貴重な機会を与えてくださった出版文化国際交流会、大学出版部協会はじめ関係者の皆さまに心からの感謝を申しあげる。

中東の大ブックフェア

——第二三回ドーハ国際ブックフェア報告

岡田智武

(慶應義塾大学出版会)

「第二三回ドーハ国際ブックフェア」は、カタール文化・芸術・遺産省主催の下、二〇一二年一月二日（水）から二日（土）までの日程で、カタールの首都ドーハで開催された。時間は午前の部が九時から一三時まで、そして午後の部が一六時から二二時まで。金曜日はカタールにおける礼拝日であり、午後の部のみの開催であった。日本との時差は六時間。暑いイメージがあったが、訪問した時期の一二月は平均二五℃前後。日本での秋の初めあたりの気温で、スウツの上着を着ていてちょうど過ごしやすかった。

カタール（The State of Qatar）は、アラビア半島東部、カタール半島のほぼ全域を領土とする半島国家で、南はサウジアラビアと、東にはペルシャ湾を挟みUAEと接している。その国土は、秋田県とほぼ同程度の大きさであるが、狭い国土に莫大な天然ガスと石油資源を有するため、二〇一一年における国民一人当たりGDPは世界第一位である。カタールはこうした豊富な天然資源を背景にして世界経済危機後も急

速な発展を遂げている。首都であるドーハには近代的な高層ビル群が建ち並び、海上には巨大な新国際空港の建設も進められていた。また、小国ながら外交にも非常に力を傾注し、広大な教育都市を造り、欧米の有名大学を数多く誘致している。実際、図書館に来場された方々は、非常に流暢な英語を話される方ばかりであった。

二〇一二年は日本カタール外交関係樹立四〇周年という特別な年でもあり、この第二三回ドーハ国際図書展に、日本はゲスト国として招待された。在カタール日本国大使館は、この四〇周年の最後を飾る記念行事として、独立行政法人国際交流基金、出版文化国際交流会（PACCE）と共催で日本ブリスを出展し、日本関連図書の展示、書籍の販売（紀伊國屋書店ドバイ店）、そして様々な文化イベントを実施した。特に文化イベントは、今回の日本ブリスの目玉と言ってもよいものであった。

日本ブリスの面積は、例年の一〇倍以上の広さ。常時三〇名ほどで全体の運営に当たった。ブリスは、三つのブリスに区切られ、展示場出入口側に国際交流基金・PACCE共催の日本関連図書展示ブリス、その隣に紀伊國屋ドバイ店からの書籍販売ブリス、そしてこの二つのブリス背面に、文化イベントブリスであるステージが設けられ、連日各種イベントが開催された。一例を挙げると、コンテンツメディアプロデューサー櫻井孝昌さんによる「日本のポップカルチャー紹介講演」、声優上坂すみれさんによる「トークショー」、ロボット

クリエーター高橋智隆さんによる「ロボット講演」などなど、どれも大変に盛況なイベントであった。

私が担当した国際交流基金・PACC共催ブースでは、日本関連図書を展示していた。小説から写真集、日本の紹介書籍、専門書、マンガ等々と展示書籍は多岐にわたるが、ほとんどは英文のものである。このブースでは書籍は展示するのみであるが、今回はお隣に紀伊國屋ドバイ支店が出展し、特にマンガを中心に品揃えが充実していたので、マンガを購入したいという方はお隣で販売してまずよと、スムーズに案内できたのはとても有り難かった。しかし、他の出展ブースでは書籍が販売されているにもかかわらず、本ブースだけは展示のみですという形態は、ブックフェアではなかなか理解されにくいように思ったのが実感である。実際に、隣の紀伊國屋さんのブースで取り扱っていない書籍については、Online Displayと毎日何度も説明しなければならなかった。来場者の方にとってみれば、販売も視野に入れたブース形態が望まれるかたちのように思う。

会場は、朝は社会科見学の生徒さん達（共学もあるようだが、基本的には小学生から男女別の学校とのこと）、午後は子供連れの家族で大変に賑わった（特にお休みの金・土曜）。展示場の隅の一角には、なぜか電子製品やおもちゃ、ゲームも販売されていたが、ここのいつも結構な人だかり。およそ会場の右半分がこうした教育・玩具関連で、左半分の比較的まじめな書籍のコーナーよりも、こちらのほうが連日人が多

いように感じた。日本でブックフェアというと、やはり出版社や書店関連の方の来場がメインのように思うが、カタルでは一般の方がまさにフェアを楽しみに来場しているという感じを強く持った。

当然版權交渉されるようなことはなかったが、お尋ねが多かった書籍は、マンガを除けば、武道の本、寿司の本、日本刀の本、日本の風景の本、ファッションの本、盆栽の本、漢字の本などである。主として伝統的な日本のイメージがあり、かつ美しい写真が掲載されている書籍が多かったように思う。こうした展示書籍をメインにしながら、折り紙や書道で集客もしていたが、ひっきりなしに人が訪れるほどの人気であった。大使館の方からも毎年この二つはとても人気があると伺った。来場者の方も多く、連日忙しい日々であったが、日本ブースは前述のようにまさに盛りだくさんの内容で、非常に充実した図書展であったと思う。

最後になってしまったが、本ブックフェアでは、カタル日本大使館の門司健次郎大使、安澤宗泰さんはじめ大使館の方々、またブース運営スタッフの方々には大変にお世話になった。あらためて深甚の御礼を申し上げたい。また出版文化国際交流会の横手多仁男専務理事をはじめ、色々ご心配をお掛けした新藤雅章事務局長、佐藤佳苗さん、国際交流基金、そして貴重な機会をいただいた大学出版部協会の皆様に心から感謝を申し上げ、本報告としたい。

哀悼 箕輪成男さん

石井和夫

(大学出版部協会顧問)

箕輪さんは大学出版部協会をつくった人である。

その計報は東京大学生生活共同組合のOB仲間から伝えられた。「箕輪が死んだ、葬儀は家族だけで済ませたそうだが、淋しくなるなあ」と。ぐっと胸にこみあげてくるものがあった。

六五年前になる。箕輪さんは経済学部二年生であったが、すでに東大生協の要石^{かなめいし}だった。公認会計士をめざしており、生協の経理システムをつくりあげていた。勉強家であり論客であり毒舌家であった。その毒がすかっとしてあとに残らなかったのは、どこか粹^{いき}で江戸っ子的であったせいだろう。奥さんから浅草桃林寺に埋骨^{いまい}と伺って、なるほどと思った。

東京大学出版会は東大生協から生まれた。総務・経理を箕輪さん、営業を書籍部担当の中平千三郎さん、編集を出版部の私。南原繁会長や有澤廣巳理事長は三役と呼んで実務をまかせてくださった。司令塔は箕輪さんである。大学出版の理念から経営の枠組みづくり、すべて彼の手によっている。なかでも「法人事業税における出版業への課税」をめぐる本郷税務署長との論戦は記憶に鮮かだ。

第二のスプリングボードとなったのは、一九六二年ロックフェラー財団の招きによるアメリカ諸大学UPの歴訪であったろう。「アメリカでは、アメリカでは」の連発にいささか辟易させられたものの、レフェリーシステムやコピーエディティング等々、企画・編集態制を根っこから建てなおさせてもらった。

と同時に、アメリカ大学出版部協会(AAUP)との連携。

これが大学出版部協会(AJUP)誕生の契機となったことを疑う人はないだろう。初代幹事長・箕輪成男は、八大学二学術団体が発足したそれを、三二大学にまで発展させる原動力となったのである。

やがて箕輪さんは国際連合大学の発足とともに招かれて移籍した。日本から世界への飛躍である。学術情報局長となり視野をひろげ活動の場をグローバルにした。国際学術出版連合会長に選ばれたのがそれである。そのころから世界的な出版史研究、科学的体系化に先鞭をつけ、転じて神奈川大学で国際コミュニケーション論を講じるようになった。『パピルスが伝えた文明』に始まる五部作(出版ニュース社)は箕輪出版学の集大成といわれる。その他著訳書多数。悦子夫人が画文集『園芸マドリガル——マイグリーンライフ』(ブツクガーデン出版部)を上梓されたとき、「わが家の文運ますます隆盛」と誇らしげに書いてきた。十分に充実した人生であったにちがいない。享年八十七歳。

安らかに眠り下さい。謹んで御冥福をお祈りいたします。

大学出版部ニュース

●協会創立五〇周年記念シンポジウム

「新しい社会を拓く大学の力」と銘うって六月に始まった連続シンポジウムが、一〇月二六日の第四回をもって終了した。会場の京都大学東京オフィス（品川インターシティ）は、各回ともほぼ満員に近く、とくに第二回「知を磨く西洋古典」は大幅に増席したほどだった。このときの講演と討論の内容は、後日読売新聞で一面を割いて紹介された。延べ参加人数は四百名を超え、会社員、研究者、主婦、大学生などさまざまな層に及んだ。一般の方々に理解できる講演でありながら学問的にも意義のある内容で、講演後の討論会では聴講者のアンケートに答えたり、研究者間の対話の妙味あふれるものとなった。このシンポジウムの三回目と四回目の内容は、日本生命財団の刊行助成を受けて、来春にもブックレットの形で刊行される。

●第二回理事会・部会・懇親会の開催

二〇一三年度の年末例会が、一二月六日に霞ヶ関・東海大学校友会館で開かれた。理事会では五〇周年記念事業などの

報告のほか、黒田理事長からは今年を基点とする新時代の協会の方向性が明示された。協会の中核事業の安定化、デジタルへの対応、物流への意識、地域・地方を見すえた新事業部会の創設、協会入会基準の見直しなどである。そのあと、初の試みである未加盟出版部が参席した「第一回懇談会」が開かれた。協会からは黒田理事長のほか、三名の常任理事と協会顧問一名が出席、未加盟出版部側は東京外国語大学出版会、大阪公立大学共同出版会、早稲田大学出版部、山形大学出版部の四校六名であった。まず黒田理事長による学術出版の全体状況分析が四〇分ほどおこなわれ、後半は参席した方々からコメントや近況報告をいただいた。本会の目的は、未加盟出版部の支援にむけて共通理解を深め、協会が何をできるのかを探ることであったが、個性豊かな出版部の加盟によって逆に協会の存在と発信力が増幅するという感触が得られた。夕刻からの懇親会は賛助会員社も含めて九四名の盛会となり、混雑する会場の外では、師走の夜が更けていった。

北海道大学出版会

▼井上敬介著『立憲民政党と政党改良―戦前二大政党制の崩壊』（A5判・六三〇円）民政党の全体史を明らかにする初の研究書。「北海道大学大学院文学研究科研究叢書24」

▼山口裕文編著『栽培植物の自然史Ⅱ―東アジア原産有用植物と照葉樹林帯の民族文化』（A5判・三三六〇円）栽培化にかかわる諸問題、文化的側面等を考察する。

▼近藤敬治著『日本産哺乳動物毛図鑑―走査電子顕微鏡で見る毛の形態』（B5判・六三〇〇円）毛の系統的価値や形態と機能の関係を論ずる上での基本図鑑。

▼田中時昭著『明日の冶金に挑む―水素からたどる冶金の未来』（A5判・四二〇〇円）水素と冶金の融合に夢を託し冶金技術への大きな想いを具体的に解説する。

▼青年寄宿舍舎友会編『宮部金吾と舎生たち―青年寄宿舍107年の日誌に見る北大生』（A5判・七八七五円）創立以来書き継がれてきた日誌を解説し編集した。

▼松本直幸著『雪腐病』（A5判・四七二五円）積雪下で活動する植物病原菌を生物学のおよび農学的に解説する。

弘前大学出版会

▼『まいまいさんとなめくじさん』絵と文…おのななせ、監修…佐藤光輝（A5判・三〇頁・定価一二六〇円）学生の卒業制作が絵本に！



▼『東日本大震災 弘前大学からの展望』弘前大学震災研究交流会編（A5判・二五二頁・定価一六八〇円）大震災について語り、聞き、発信し続けてきた、弘前大学からの「震災通信」。

▼『環境・地域・エネルギーと原子力開発〜青森県の未来を考える〜』大坪正一・宮永崇史編著（A5判・一六七頁・定価一四七〇円）環境との共生という視点から、原子力開発問題を学際的に学ぶ。

東北大学出版会

▼東北大学大学院文学研究科出版企画委員会編『人文社会科学講演シリーズVI 男と女の文化史』（四六判・二三一〇円）

▼泉武夫著『人文社会科学ライブラリー第2巻 竹を吹く人々 描かれた尺八奏者の歴史と系譜』（四六判・二二〇〇円）

▼岩手大学大学院教育総合センター編『ICTで実現する大学教育改革 フランス・カナダ・日本の事例から』（A5判・二六二五円）

▼河村和徳・湯浅肇道・高選圭編著『被災地から考える日本の選挙 情報技術活用の可能性を中心に』（A5判・二一〇〇円）

▼奥村誠・藤原潤子・植田今日子・神谷大介著『東北アジア学術読本3 途絶する交通、孤立する地域』（四六判・二三一〇円）

▼小嶋大造著『現代農政の財政分析 財政調整からみた日本とドイツ』（A5判・四二〇〇円）

▼伊藤大介著『近代日本と雪害 雪害運動にみる昭和戦前期の地域振興政策』（A5判・二九四〇円）第8回東北大学出版会若手研究者出版助成採択作品

流通経済大学出版会

▼『金融市場の社会学』ドナルド・マツケンジー著 岡本紀明訳（A5判・二五二頁・三三六〇円）

従来、金融市場を対象とした研究は経済学に依拠したものが多く、ある程度モデルとして定式化される市場の存在を前提としてきたように思われる。果たして、その前提は正しいのであるうか。実は、金融市場は自身がよくわからないブラックボックスで満ちているのではないだろうか。本書はこのような問題意識のもと、金融市場におけるヒトやモノの細部を念に分析すべく、金融市場（LIBORやデリバティブ及び裁定取引など）とその関連領域（企業における利益の測定や排出量取引）に関する事例研究・インタビュー調査・参与観察から構成される。

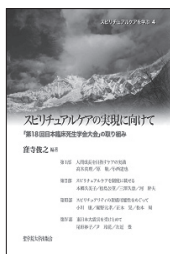
著者は、科学社会学の領域では有名なエンジンバラ学派を代表する人物であり、現在脚光を浴びる金融社会論（Social Studies of Finance）の第一人者でもある。本書の斬新かつ学際的な視点は、リーマンショックに端を発した金融危機やLIBORの形成をめぐる昨今の問題を考える際にも極めて示唆に富む。

聖学院大学出版会

▼窪寺俊之編著《スピリチュアルケアを学ぶ4》「スピリチュアルケアの実現に向けて——『第18回日本臨床死生学会大会』の取り組み」（A5判並製・二九二頁・二四一五円）

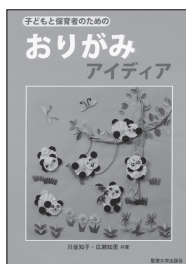
本書は、「第一八回日本臨床死生学会大会」（二〇二二年一月、大会会長・窪寺俊之）において「スピリチュアルケアの実現に向けて」という主題のもとに開催された四つのシンポジウムをまとめたものである。第Ⅰ部 人間成長を目指すケアの実践、第Ⅱ部 スピリチュアルケアを制度に載せる、第Ⅲ部 スピリチュアリティの架橋可能性をめぐって。第Ⅳ部は東日本大震災を受けとめてスピリチュアルケアの可能性について議論された。新しい医療、看護、介護、教育、人間理解を求める多職種の方々の論考を所収。これらの取り組みの紹介により、一般の方々の

（スピリチュアルケア）への理解が深まることを願う。



聖徳大学出版会

▼川並知子・広瀬知里共著『子どもと保育者のためのおりがみアイディア』（B5判・一二八頁・一五七五円）幼児が無理なく折り紙遊びを楽しめる方法や「折る」だけで、簡単に折り紙を三等分や五等分・六等分にできる技法も取り上げた。新たな折り紙の魅力に気づける一冊。



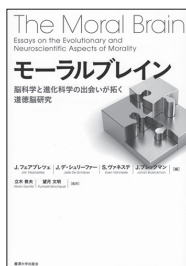
▼川並知子著『さくら紙あそび』（B5判・六四頁・六八二円）「さくら紙」（おはな紙）の遊び方別に構成し、作品の活用例もふんだんに掲載。親子での紙遊びから保育現場での活用など、ぜひ手本としてさくら紙あそびを楽しんで欲しい。



麗澤大学出版会

▼J・フエアブレツエ他編／立木教夫他監訳『モラルブレイン——脳科学と進化科学の出会いが拓く道徳脳研究』（A5判・四一六頁・六〇九〇円）。脳の道徳的情報処理メカニズムを探究する認知神経科学者と、道徳の起源と獲得過程を探究する進化生物学者・進化心理学者が協力し、愛着・共感・犯罪・互惠性・利他性・宗教などのテーマを論じた、最新の道徳脳研究の書。

▼伊東俊太郎著『変容の時代——科学・自然・倫理・公共』（A5判・一九二頁・二五二〇円）転換期を迎えた今、科学の在り方、自然の概念、倫理の捉え方、公共の見方、そして文明そのものの存在様式が大きく変化しなくてはならないという考えのもと、この国、この世界が少しでも良き方向へ進むには何をすべきかを論じた講演集。



慶應義塾大学出版会

▼井筒俊彦著『井筒俊彦全集 第二巻』

(四六判・六六〇頁・七一四〇円) 初期代表著作『神秘哲学』のほか、詩と哲学を存在論の観点から論じる一九四九年から一九五一年までの著作を収録。月報Ⅱ安藤礼二、高橋巖、納富信留。

▼井筒俊彦著『井筒俊彦全集 第三巻』

(四六判・六〇八頁・七一四〇円) 井筒自ら「私の情熱だった」と語るロシア文学を、若きパトス溢れる筆致で描き出す『露西亜文学』と「ロシアの人間」を収録。ロシアの混沌の中から「哲学を生きたこと」を発見した、井筒の原点がここにある。ほか、一九五一年から一九五三年の著作を収録。月報Ⅲ山城むつみ、沼野充義、谷寿美。



ケンブリッジ大学出版局

▼The Study of Language, 5th Edition

George Yule

(Hardback 9781107044197 USD 90.00)

(Paperback 9781107658172 USD 29.99)

ジョージ・ユール著『現代言語学第5版』

一九八五年に第1版が出版されて以来、常に世界中でベストセラーになっている言語学の定番テキストの第5版。



▼The Cambridge Dictionary of Linguistics

Keith Brown and Jim Miller

『ケンブリッジ言語学事典』

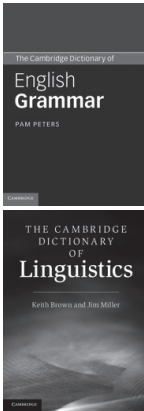
(Hardback 9780521766753 USD 115.00)

▼The Cambridge Dictionary of English Grammar

Pam Peters

『ケンブリッジ英文法辞典』

(Hardback 9780521863193 USD115.00)



産業能率大学出版部

▼『社会人のための情報解釈力ー活かす・読み解くということ』斎田真一著 (四六判・一四七〇円) 情報の海におぼれないための情報の活用術を解説。

▼『リアージュー！フレンチ至高の楽しみ』ロマン・エヴァンジェリスタ著 (A5判・一八九〇円)。

▼『新装版 ユダヤと日本 謎の古代史』M・トケイヤー著／箱崎総一訳 (四六判・一五七五円)

▼『リセット力』で今からの脱出ー30代からの変革型リーダー入門書 豊田貞光著 (A5判・一七八五円) 「どん底から這い上がる力ーリセット力」を解説。

▼『社会人のための産業・組織心理学入門』高橋浩・中嶋励子・渡邊祐子共著／高橋修編著 (A5判・二五二〇円) 産業・組織について最新の研究成果を網羅。

▼『タイムイノベーションー成果を創出する時間の有効活用術』西村秋彦著 (A5判・一六八〇円) 時間価値を高めていくためのノウハウを伝授。

▼『改善上級講座ーしくみ・しかけ・しそ』東澤文二著 (A5判・一五七五円)

専修大学出版局

▼『日本政治の転換 1997-2001
3』藤本一美著（A5判・一八八頁・二一〇〇円）

九〇年代後半から二〇〇〇年代にかけての日本の政治は、政党が連立を組んで解消し、政権が目まぐるしく変わった。戦後続いてきた保守対革新の構図はついにくずれさり、社会民主主義の政党（民主党）が政権をとったが、そのあと一度沈没したはずの安倍内閣の再登板となったのである。日本の戦後政治の流れと争点を具体的に論述し、政治家の人物や政治手法を炙り出した著者の三冊目の締め括りの書である。

▼『イノベーションのミクロ実証経済分析』中西泰夫著（A5判・一八〇頁・二七三〇円）

投資の過剰性を避けるというコストリダクション型のイノベーションを、研究開発、IT、特許の三方向から解明していく。そのためにミクロ経済理論のもとで枠組みを作り、実際のデータを使用しながら計量経済学的手法をもって実証分析を行い、モデルの推定と仮説のテストを行う。

大正大学出版会

【既刊紹介】

▼『宝菩提院本 類聚名義抄』倉島節尚編・B5判・六八二五円）類聚名義抄は十〜十一世紀に成立した漢字辞書である。和訓・和音を記すことから平安後期の語彙やアクセントがひろえる。完本は鎌倉時代に書写された観智院本しか現存していない。本書は原撰本を増補改訂した宝菩提院本（零本・完全ではない本）の全頁を写真で掲載している。

▼『宝菩提院本 類聚名義抄 和訓索引』倉島節尚編・B5判・本体四七二五円）宝菩提院本類聚名義抄には四〇〇〇余語の和訓が記されている。本書はその索引であり、観智院本やその他諸本との対応箇所も提示する。前書とあわせ日本語史研究・辞書史研究において欠くべからざる資料である。

▼『日本語辞書学への序章』倉島節尚著・A5判・本体四九三五円・三浦しおん『舟を編む』主人公のモデルのひとりである著者が、編集実務と理論考究の両面から日本語辞書学を体系的に論じる。本書は「現代国語辞典の解体新書」ともいうべき一冊である。

玉川大学出版部

赤坂憲雄ほか編『フィールド科学の入口』（全二〇巻、A5判並製・各約二四〇頁・各二五二〇円）フィールドから見える「知の新しい地平」とは？ 従来の学問の枠組みを超えて相互の有機的なつながりを探るシリーズ。第一弾刊行。

▼『暮らしの伝承知を探る』（野本寛一・赤坂憲雄編）村に入って、古老を訪ねて、話を聞くことから、民俗学という知の営みは始まる。事例、新しい研究動向、他領域とのコラボレーションを紹介。

▼『イネの歴史を探る』（佐藤洋一郎・赤坂憲雄編）野生イネから栽培イネへと変容を遂げてゆくイネの起源や歴史を、第一線の研究者たちがそれぞれのフィールドから報告する。

▼『自然景観の成り立ちを探る』（小泉武栄・赤坂憲雄編）山、サンゴ礁から、地震、津波まで、現場から自然の謎を説明する。東日本大震災後に再注目される「地生態学（ジオエコロジー）」の世界。



中央大学出版部

▼萩原金美著『検証・司法制度改革Ⅰ』（二二〇〇円）司法制度改革の最重要課題である法曹養成・法科大学院問題について類書にみられない根本的かつ多面的な検討を行う。この課題は実はわが国・社会の在り方に決定的影響を及ぼすもので、その実現の停滞ないし後退が許されるべきでないことを説得的に論証する。

▼下條慎一著『J・S・ミルの市民論』（二七三〇円）「公益」よりも自己とその属する組織・集団の「私益」を優先させる雰囲気がつよまるなかで人々を感じる生きにくさを解消する手がかりとして、すべてのひとが「個性」と「公共精神」を発揮して「幸福」に生きることをめざすミルの思想を追究する。

▼平野 晋著『体系アメリカ契約法―英文契約の理論と法務』（六八二五円）アメリカ契約法の邦語による初の体系的基本書。アカデミックな契約法理や法解釈を体系的に網羅しつつ、図表も多用して難解な理論も判り易く解説している。論点を素早く知りたい実務家や、アメリカ契約法を体系的に理解したい初学者にも最適な基本書である。

東京大学出版会

▼UPコレクション（全二〇点、四六判、各二五二〇円／三三六〇円）
ながらく読み継がれてきた名著を精選し新装復刊する待望のコレクション。「補遺」や「新装版に寄せて」「解題」などの新たな収録により、現代の古典が瑞々しく甦る。

渡辺二郎『ニヒリズム』／中井久夫『分裂病と人類』／佐伯胖・佐々木正人編『アクトイブ・マインド』／佐伯胖・宮崎清孝・佐藤学・石黒広昭『心理学と教育実践の間で』／永原慶二『歴史学叙説』／江口朴郎『帝国主義と民族』／佐藤次高『マムルーク』／仁井田陞『東洋とは何か』／伊東俊太郎『比較文明』／神島二郎『文明の考現学』／京極純一『和風と洋式』／石田雄『日本の社会科学』／竹内啓『社会科学における数と量』／大嶽秀夫『戦後政治と政治学』／村上淳一『法の歴史』／利谷信義『日本の法を考える』／青木信仰『時と暦』／江上信雄『生きものと放射線（UPバイオロジー）』／岩槻邦男『陸上植物の種（UPバイオロジー）』／佐藤七郎『細胞 第3版（UPバイオロジー）』

東京電機大学出版局

▼脇英世著『シリコンバレー・ストーリー・ジョブズの揺りかご』（四六・五六〇頁・二六二五円）
多くの半導体企業が誕生し、いまやハイテク企業の大拠点となった米カリフォルニア州北部のシリコンバレー。本書は、その黎明からマイクロコンピュータ革命前夜までを扱い、ストーリー・ジョブズがアップル社を創業するにいたる基盤がどのように形成されたのか、歴史を辿りながら分析する。第1部では、著者が実際に現地に足を運び、ジョブズを含む重要人物・企業にゆかりあるスポットをくまなく訪ね歩いた様子をレポートする。第2部では、シリコンバレーの歴史を時系列に沿って解説し、ジョブズを育てた揺りかごとも言うべき環境がいかにしてできたのかを解き明かす。技術的な内容は必要最小限にとどめ、シリコンバレーを取り巻く人々や企業について豊富なエピソードを交えながら解説。理工書に馴染みのない読者にもお勧めの一冊である。



法政大学出版局

▼M・ノルト／山之内克子訳『人生の愉楽と幸福』（六〇九〇円）読書、旅行、ファッション、家具調度、絵画、音楽、舞台芸術、嗜好品など、一八世紀ドイツに花開いた文化消費のありようを描く。

▼J・ランシエール／梶田裕訳『解放された観客』（二七三〇円）スペクタクルの支配する今日の社会で主体としての観客はいかにして可能か？『無知な教師』を発展させた芸術と政治への先鋭な思考。

▼N・ルーマン／小松丈晃訳『社会の政治』（七一四〇円）全体社会は政治システムそのものであり、その環境でもあると考えたルーマンは、政治をめぐる権力や市民社会をいかにとらえたのか。

▼B・ライール／鈴木智之訳『複数的人間』（四八三〇円）ブルデューを批判し、個人が身体化する性向の多元性と行為の展開する文脈の多元性をかけあわせて、社会学の新たな可能性を切り開く。

▼鈴木俊洋著『数学の現象学』（四四一〇円）フッサールは如何にして新しい哲学の方法論、現象学を創始したのか。直観的把握、抽象、多様体から「フッサール数学論」を解明し新たな展開を示す。

武蔵野大学出版会

▼舞田敏彦著『教育の使命と実態』（二九四〇円）教育には公正で正当な社会移動の手段となるべき使命がある。しかし教育が格差の再生産に加担している現実が統計データの分析から明らかにされる。

▼藤原千賀著『男女共同参画社会と市民』（二二〇〇円）男女が共に暮らし、働き、学び、決定する男女共同参画社会の実現への歴史と成熟への展望。教育、就労、政治、家庭などの各領域で、性別役割分業の文化から自由になり、主体的な選択と活動ができる社会の実現のために市民のとるべき行動を論じる。

▼ケネス・タナカ著『アメリカ仏教』（二一〇〇円）著者の中学・高校時代には、仏教信者であることを表明するものも躊躇われるほど仏教はアメリカ社会に受け入れられていなかったが、今では多くの著名人が仏教への傾倒を公然と表明し、文学、芸術、心理学等に仏教思想の影響がみられるという。アメリカに浸透する過程での仏教の変容と、仏教を受容したアメリカの人と社会の変化をとらえ、宗教（特に仏教）がもたらす平安や、社会における宗教（仏教）の意義を問い直す。

武蔵野美術大学出版局

▼『保田龍門・保田春彦往復書簡 1938-1968』（A4判、四七二頁 上製 一九九五〇円）本書は、保田春彦のバリ留学を機に、一九五八年より六五年までにかわされた父・龍門との私信二三六通を収録する往復書簡集である。同時にこれは、ひとりの青年が、ひとりの彫刻家になるまでの記録であり、「稀なる父子」の物語である。パリ、グランド・シヨミエールでザッキンに師事する春彦。龍門は華やかな二〇年代、ここでブルデルに学んだ後、四〇代半ばにして中央を離れ、大阪での戦災をくぐり抜け、彫刻家として一家六人を養った。「大らかに生きてくれ」とバリの息子に書きつつ、最後の大作、名古屋市平和堂壁面と立像に取り組んでいた。やがて春彦はローマへと拠点を移し、ヨーロッパでのデビューをはたす。

父子二代にわたる彫刻家としての葛藤・慈愛・格闘は、彫刻界を描く美術史料としての価値をもつだけでなく、春彦とイタリア人女性シルヴィアの恋愛をめぐる普遍的な家族のあり方、芸術家としての生を余すことなく描くビルドゥングスロマンである。写真一一五点収録。

明星大学出版部

▼『初等教育課程入門』

青木秀雄編（A5判・一六八〇円）

▼『中等教育課程入門』

吉富芳正編（A5判・一六八〇円）

教育課程とは教育目的の実現のために行われる教科及び教科外活動すべてのこととされる。これまでの歩み、その内容、意義、取り巻く環境などすべての面において解説を試みる。基本的に同内容の叙述に初等教育編は幼稚園の章を含む。

▼『教職入門』

青木秀雄編（A5判・一六八〇円）

▼『教職実践演習 磨きあい高めあう熱意ある教師に』

青木秀雄編（A5判・二一〇〇円）

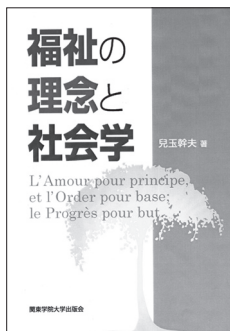
教員になるに当たって、教師たり得る資質能力を高めることができるか——自ら振り返って成果を確認する。



関東学院大学出版会

▼『兒玉幹夫著『福祉の理念と社会学』（A5判・二二四頁・二七三〇円）

福祉社会の理念を、友愛・連帯・平等・公正など欧米の社会学思想の発展のうちに求め、それに先導され、それを消化しながら日本の社会学が進展してきた過程を学説史的にたどった福祉社会学思想史。特に従来あまり知られなかった明治・大正・昭和の福祉社会学の先駆者たちを論じた諸章がユニークである。



▼黒川洋行著『ドイツ社会的市場経済の理論と政策―オールド自由主義の系譜』（A5判・三二〇頁・三三六〇円）

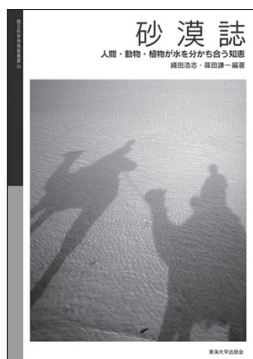
本書は、戦後ドイツの経済指導理念たる「社会的市場経済」の理念と政策について、その創設者ミュラー＝アルマツクの言説に基づき分析している。

東海大学出版会

▼『砂漠誌―人間・動物・植物が水を分かち合う知恵―国立科学博物館叢書⑮』

縄田浩志・篠田謙一編著（B5判・四九六頁・定価三九九〇円）

本書は、総合地球環境学研究所と国立科学博物館の共同企画展「砂漠を生き抜く―人間・動物・植物の知恵」のダイジェスト版である。北アフリカから西アジアにかけての乾燥地域を対象として、砂漠という過酷な環境の中で生きる人間や動物、植物の姿を紹介する。砂漠では動物や植物が体を変化させ環境に適応し、ヒトはそれを利用して暮らしている。貴重な水をうまく分かち合うことにより生きぬき、生み出した文化から、私たち人類のこれからの生き方を考えるヒントを探る。



名古屋大学出版会

▼『近代世界システム』全四巻

IV 中道自由主義の勝利 1789-1914
待望久しい、シリーズ最新刊。

I・II 主要な批判に応答する新たな序文を付して一斉刊行！

I・ウォーラーズテイン著／川北稔訳
(各五〇四〇円)

▼『ものつくりを超えて―模倣からトヨタの独自性構築へ―』和田一夫著(五九八五円)「かんぱん」から海外展開まで、巨大な生産システムを支える、一貫した「情報」への取り組みを明らかにし、企業

の独自性とは何かを問いかけた力作。
▼『統合ヨーロッパの市民性教育』近藤孝弘編(五六七〇円)統合進展とともに動揺する欧州。排外主義や帝国化を回避しつつ、国境を超える民主主義をどのようにに発展させていくのか。困難な課題への挑戦とその実像を示す。

▼『イスラーム主義と中東政治―レバノン・ヒズブツラーの抵抗と革命―』末近浩太著(六九三〇円)「テロ組織」レジスタンス、政党などの貌をもつ「ヒズボラ」。その実像を通して、レバノン・中東・国際政治のダイナミクスを描き出す。

三重大学出版会

▼『続・院長の部屋から』竹田寛・竹田恭子著(B5版一四〇頁) まえがき、平成二四年度 1「四月…雪柳」 2「五月…箱根空木」 3「六月…どくだみ」 4「七月…小海老草」 5「八月…ほうせんか」 6「九月…秋海棠」 7「十月…水引草」 8「十一月…小菊」 9「十二月…紅葉」平成二五年度 1「一月…蠟梅」 2「二月…みかん」 3「三月…クリスマス・ローズ」 4「四月…桜草」 5「五月…えにしだ」 6「六月…あやめ」 7「七月…くちなし」

三重大学附属病院長の著者が野外観察の実際を綴った前作の続編。附属病院のホームページに設けられた「院長の部屋」に連載されて評判となったもの。科学者らしい野外観察力で花卉・おしべ・めしべ・開花・退縮など克明に図解する。野外観察記を分りやすく書く時の手順、目の付け所、心構え、コツが分る。また、ご近所の生け垣の花マップや花写真・花スケッチを作成するときにも最適の見本となる。前作に比べると、絵・写真・観察・解説、分りやすさ共に、冴え冴えとして編集しながら溜息する一冊。

京都大学学術出版会

▼ジョン・D・アンダーソン Jr. 著 織田剛訳『飛行機技術の歴史』(四七二五円) 19世紀以前の羽ばたき機から20世紀のジェット推進機まで、飛行機の歴史を迫りながら、飛行機を支える工学技術に関する発想の原点と、その発想を生んだ開発者の人生を振り返る。

●日本航空協会会長・野村吉三氏推薦
▼杉本耕一著『西田哲学と歴史的世界―宗教の問いへ』(四六二〇円) 昭和という動乱の時代に、その歴史の展開の中で、西田幾多郎は、独自の思索を展開した。「歴史」という概念を軸に、「宗教」の問題に踏み込む西田哲学の全体像を描く。

▼伊藤淳史著『日本農民政策史論―開拓・移民・教育訓練』(四四一〇円) 土地や物や金(農地・食糧・金融等)についての農業政策史研究は数多い。しかし、政策のもとに耕作するのは農民であり、その視点から見たとき、実は国家や政策は一元的、固定したものではない。政策の立案者のみならず、受容者にも焦点を当て、近現代日本農政の系譜、その光と影を鮮やかに描き出す。

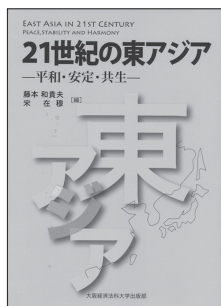
大阪経済法科大学出版部

今回は既刊書の紹介です。

▼『21世紀の東アジア―平和・安定・共生―』藤本和貴夫・宋 在穆 編（二六二五円）

本書は、二〇〇八年に大阪国際交流センターで開催された第五回東アジア国際学術シンポジウム「21世紀の東アジア・平和・安定・共生」で発表された報告論文をもとに、執筆者に手を加えていたいたものを編集したものである。

第一部 平和と安全保障
第二部 持続可能な経済発展と環境保全
第三部 国際移住と共生社会



大阪大学出版会

▼中村安秀・南谷かおり編『医療通訳士という仕事―ことばと文化の壁をこえて』（一九九五円）ますますふえる医療関係者と外国人患者の間のことばの壁を越え、双方のコミュニケーションを回復する医療通訳士の役割と実際を紹介。

▼野村泰幸編『ヨーロッパ・ことばと文化―新たな視座から考える』（二四一五円）言語という窓を通してヨーロッパのことばと文化と歴史、さらには人間性の普遍と特殊の理解に、興味ある切り口を提供する。

▼奥村明之進・土岐祐一郎監修、渡部健二・和佐勝史編『臨床実習のための画像診断入門』（五二五〇円）病棟をローテーションする医学生、研修医、コメディカルに最適な画像入門書。内科系、外科系の代表的な画像を大阪大学医学部付属病院が厳選して収録。解説と症例、Q & A。フルカラー。

▼家高洋著『メルロピュンティの空間論』（三九九〇円）空間の問題系に対して、空間経験に関するシステムと主体との現象学的関係を提示し、メルロピュンティ思想の新解釈を提示する。

関西大学出版部

▼ギュンター・ヤコプス著／飯島暢・川口浩一共訳『国家刑罰―その意義と目的―』（A5判・一八九〇円）本書は、国家刑罰論の本質を思想的な背景から鋭利に描きだすヤコプス刑罰論の翻訳である。講演「どのようにして何を刑法は保護するのか？」の翻訳と原文も付録で掲載し、訳者の解説も充実している。

▼イルムガルト・コイン著／柏木貴久子訳『人エシルクの女の子』（四六判・二九四〇円）ワイマール共和国時代、瑞々しい感性でベストセラーを生み出したイルムガルト・コイン。彼女の代表作である本作品はポップ文学の先駆けであり、その題材や手法は今なおアクチュアリティを持つ。本書は、ワイマール期ドイツ文化を知るためには絶好である。

▼高橋誠一著『日本と琉球の歴史景観と地理思想』（B5判・五七五円）一般的な理解では、琉球は古代以来、日本文化の影響下にあった。しかし、歴史景観に潜む地理思想を分析すれば、作画的なミスリードであったことがある意味わかる。本書では、集落形態などの調査を通じて、相互の多面的な交流を検討する。

関西学院大学出版会

- ▼J・H・ベイカー著 深尾裕造訳『イギリス法史入門 第4版 第1部（総論）』（A5並製・五〇四頁・定価四七二五円）
- ▼杉浦司著『新説 情報リテラシー—ソーシャル時代を生き抜くための情報スキル』（A5並製・二五〇頁・定価二四一五円）
- ▼宮田由紀夫著『アメリカ航空宇宙産業で学ぶミクロ経済学』（A5並製・一四六頁・定価二二六〇円）
- ▼三原博光・松本百合美編著『豊かな老後生活を目指した高齢者介護支援—保健医療福祉の連携より』（A5並製・二二〇頁・定価二一〇〇円）
- ▼唐沢 敬著『世界経済 危機と発展の構図—新しい政治秩序とシステム構築への視点』（A5並製・二四〇頁・定価二四一五円）
- ▼石原俊彦監訳『地方公共サービスのイノベーションとガバナンス—行政サービス提供体制と住民自治体制の強化をめざす』（A5並製・三〇〇頁・定価三一五〇円）

広島大学出版会

- ▼『確率・統計の数学的基礎』藤越康祝、若木宏文、柳原宏和著（B5判・三七三頁・一四〇〇円）
- 確率と統計の基礎理論を数学的に解説した教科書。豊富な演習問題と解答を主とし、回帰分析法の主要な方法、統計ソフトRによるデータ要約などの今日的な情報も豊富に含む。
- ▼『身近なエネルギー利用のしくみ』広島大学次世代エネルギープロジェクト研究センター編（四六判・一二五頁・八三〇円）
- テレビ等、日常的に接している13の機器について分かりやすく工学的説明を加え、複数の原理が効果的に組み合わさって1つの機器として機能している様子を説明する。
- ▼『植物乳酸菌の挑戦—未病および生活習慣病から化粧品まで』杉山正則著（新書判・一五〇頁・一一五五円）
- 乳酸醗酵の科学と食文化の歴史から、植物由来の乳酸菌「植物乳酸菌」の優れた保健機能性を解説し、病気の予防や未病の改善に向けた乳酸菌の活用戦略をわかりやすくまとめた一冊。

九州大学出版会

- ▼麻生太吉日記編纂委員会『麻生太吉日記 第三巻』（A5判・一〇五〇〇円）
- 筑豊の炭鉱業の実態のみならず、地方財閥の発展の過程を余すところなく記した貴重な史料。第三巻は一九二二（二七）大正十二（昭和二）年を収録。全五巻。
- ▼フェルディナンド・フォン・リヒトホーフェン／上村直己訳『リヒトホーフェン日本滞在記—ドイツ人地理学者の観た幕末日本』（A5判・三七七〇円）
- 近代地理学の大家による幕末と維新直後の日本滞在記。日本の原風景と激動の時代を生きた日本人の素顔を活写する。刊行が待望されていた日本探訪記の全訳。
- ▼濱田耕策編著『九州大学韓国研究センター叢書2 古代東アジアの知識人崔致遠の人と作品』（A5判・五〇四〇円）
- 菅原道真と同時代を生きた国際的文人の栄光と失意の生涯をその作品とともに辿る。
- ▼菊地恵善『九州大学人文学叢書6 始めから考える—ハイデッガーとニーチエ』（A5判・五〇四〇円）
- ハイデッガーが考え続けた、「存在」をテキストを超えてその思考の根源から辿り、彼の解釈を離れてニーチェ哲学を捉え直す。

一般社団法人 大学出版部協会賛助会員社名簿

【50音順】2013年12月1日現在

株式会社朝日新聞社	〒104-8011	東京都中央区築地5-3-2
亜細亜印刷株式会社	〒380-0804	長野県長野市大字三輪荒屋1154
株式会社アベル社	〒162-0825	東京都新宿区神楽坂2-19 銀鈴会館408
尼崎印刷株式会社	〒661-0975	兵庫県尼崎市下坂部3-9-20
王子製紙株式会社	〒104-0061	東京都中央区銀座4-7-5
岡本出版送株式会社	〒353-0001	埼玉県志木市上宗岡3-16-2
カクタス・コミュニケーションズ株式会社	〒100-0004	東京都千代田区大手町2-6-2 日本ビル10階
城島印刷株式会社	〒810-0012	福岡県福岡市中央区白金2-9-6
株式会社クイックス	〒102-0073	東京都千代田区九段北4-1-13 ニュー原鉄ビル5F
株式会社桑川印刷	〒112-0012	東京都文京区大塚6-9-7
港北出版印刷株式会社	〒150-0002	東京都渋谷区渋谷2-7-7
三松堂印刷株式会社	〒101-0065	東京都千代田区西神田3-2-1 住友不動産千代田ファーストビル南館14階
三美印刷株式会社	〒116-0013	東京都荒川区西日暮里5-9-8
三立工芸株式会社	〒101-0061	東京都千代田区三崎町3-2-10 寺西ビル3F
三和印刷株式会社	〒381-2226	長野県長野市川中島町今井薬師堂1822-1
信濃印刷株式会社	〒102-0072	東京都千代田区飯田橋4-1-11
新日本印刷株式会社	〒162-0801	東京都新宿区山吹町342
大同印刷株式会社	〒849-0902	佐賀県佐賀市久保泉町上和泉1848-20
ダイニツク株式会社	〒105-0004	東京都港区新橋6-17-19 御成門ビル
株式会社太洋社	〒501-0431	岐阜県本巣郡北方町北方148-1
株式会社竹尾	〒101-0054	東京都千代田区神田錦町3-12-6
宗教法人天然寺	〒204-0021	東京都清瀬市元町1-4-5-711
株式会社東京弘報社	〒101-0051	東京都千代田区神田神保町1-34
株式会社とうこう・あい	〒104-0061	東京都中央区銀座8-11-11
東光整版印刷株式会社	〒135-0006	東京都江東区常盤2-12-15
株式会社トーヨー企画	〒602-0923	京都府京都市上京区油小路通中立売上ル 油橋詰町93-7
株式会社日本経済新聞社	〒100-8066	東京都千代田区大手町1-3-7
萩原印刷株式会社	〒112-0004	東京都文京区後楽2-21-12
株式会社博報堂	〒107-6322	東京都港区赤坂5-3-1 赤坂Bizタワー 19F
株式会社平文社	〒170-0005	東京都豊島区南大塚2-35-7
株式会社堀内印刷所	〒335-0034	埼玉県戸田市笹目3-11-5
株式会社毎日新聞社	〒100-8051	東京都千代田区一ツ橋1-1-1
誠製本株式会社	〒174-0042	東京都板橋区東坂下1-19-5
株式会社遊文舎	〒532-0012	大阪府大阪市淀川区木川東4-17-31
株式会社読売新聞東京本社	〒104-8243	東京都中央区銀座6-17-1
株式会社ライトコミュニケーション	〒101-0042	東京都千代田区神田東松町28-5 吉元ビル4F
渡辺印刷株式会社	〒152-0031	東京都目黒区中根2-7-1

一般社団法人大学出版部協会は、私たちの活動をご理解・ご支援下さる皆様による「賛助会員」制度を設けています。ここに趣旨にご賛同下さり、ご支援頂いている各社様をご紹介します。なお「賛助会員」に関するお問い合わせは協会事務局までお寄せ下さい。

●広告掲載出版社一覧（掲載順）

岩波書店	〒101-8002	東京都千代田区一ツ橋2-5-5
岩すず書房	〒113-0033	東京都文京区本郷5-32-21
御茶の水書房	〒113-0033	東京都文京区本郷5-30-20
吉川弘文館	〒113-0033	東京都文京区本郷7-2-8
藤原書店	〒162-0041	東京都新宿区早稲田鶴巻町523
日本評論社	〒170-8474	東京都豊島区南大塚3-12-4

英文学術書の執筆・出版 サポートはお任せ下さい!



英文校閲



和英翻訳



組版・印刷

カクタスが選ばれる理由

学術分野に特化した豊富な経験と実績

カクタスは英文校正のブランドであるエディテージを通じて、世界112カ国、47,000人以上の研究者、日本においては600以上の大学様に英文校正を中心とする執筆サポートを提供させて頂いた実績があります。

翻訳～校正～組版～印刷まで、英文出版のためのトータルサポート

原稿を頂いてから印刷物(書籍、パンフレット等)制作までの全工程をサポート。

複数業者との煩雑な調整がなく、制作期間中も日々の業務に最大限注力することができます。

専門分野の英語エキスパートによる作業チーム

国際的なアカデミック舞台で通用する出版物の作成には、各分野の知識を持つ英語のプロによる英文校正・英文組版が不可欠です。お客様の研究領域に特化した校閲・翻訳スタッフが多数在籍しています。

制作物一例

●印刷物

書籍・報告書・論文集
紀要・ジャーナル
パンフレット・チラシ
記念誌

●電子メディア

電子ジャーナル
ウェブサイト

実例



京都大学学術出版会様

日本物理学会様

CACTUS[®]

日本の「国際化」を応援します

カクタス・コミュニケーションズ株式会社

〒100-0004 東京都千代田区大手町2-6-2 日本ビル10階

www.cactus.co.jp | Tel: 03-5542-1950 | Fax: 03-4496-4557

※ホームページ内お問い合わせフォーム又はお電話にてお問い合わせ下さい。

一般社団法人
大学出版部協会
加盟出版部一覧

北海道大学出版会
〒060-0809 札幌市北区北9条西8丁目
北海道大学構内
TEL:011-747-2308 FAX:011-736-8605

弘前大学出版会
〒036-8560 弘前市文京町1
弘前大学附属図書館内
TEL:0172-39-3168 FAX:0172-39-3171

東北大学出版会
〒980-8577 仙台市青葉区片平2-1-1
東北大学構内
TEL:022-214-2777 FAX:022-214-2778

流通経済大学出版会
〒301-8555 龍ヶ崎市平畑120
TEL:0297-60-1167 FAX:0297-60-1165

聖学院大学出版会
〒362-8585 上尾市戸崎1-1
TEL:048-725-9801 FAX:048-725-0324

聖徳大学出版会
〒271-8555 松戸市岩瀬550
TEL:047-365-1111 FAX:047-363-1401

麗澤大学出版会
〒277-8686 柏市光ヶ丘2-1-1
TEL:04-7173-3320 FAX:04-7173-3154

慶應義塾大学出版会
〒108-8346 港区三田2-19-30
TEL:03-3451-3168 FAX:03-3451-3124

ケンブリッジ大学出版局
〒140-0002 品川区東品川1-32-5
TEL:03-5479-7295 FAX:03-5479-8277

産業能率大学出版部
〒100-0005 千代田区丸の内1-7-12
サピアタワー9階
TEL:03-6266-2400 FAX:03-3211-1400

専修大学出版局
〒101-0051 千代田区神田神保町3-8
TEL:03-3263-4230 FAX:03-3263-4288

大正大学出版会
〒170-8470 豊島区西巣鴨3-20-1
TEL:03-3918-7311 FAX:03-5394-3038

玉川大学出版部
〒194-8610 町田市玉川学園6-1-1
TEL:042-739-8935 FAX:042-739-8940

中央大学出版部
〒192-0393 八王子市東中野742-1
TEL:042-674-2351 FAX:042-674-2354

東京大学出版会
〒153-0041 目黒区駒場4-5-29
TEL:03-6407-1069 FAX:03-6407-1991

東京電機大学出版局
〒101-0047 千代田区内神田1-14-8
TEL:03-5280-3433 FAX:03-5280-3563

東京農業大学出版会
〒156-8502 世田谷区桜丘1-1-1
TEL:03-5477-2666 FAX:03-5477-2747

法政大学出版局
〒102-0073 千代田区九段北3-2-3
法政大学九段校舎1F
TEL:03-5214-5540 FAX:03-5214-5542

武蔵野大学出版会
〒202-8585 西東京市新町1-1-20 武蔵野大学構内
TEL:042-468-3003 FAX:042-468-3004

武蔵野美術大学出版局
〒180-8566 武蔵野市吉祥寺東町3-3-7
TEL:0422-23-0810 FAX:0422-22-8309

明星大学出版部
〒191-8506 日野市程久保2-1-1
TEL:042-591-9979 FAX:042-593-0192

関東学院大学出版会
〒236-8501 横浜市金沢区六浦東1-50-1
TEL:045-786-5906 FAX:045-786-2932

東海大学出版会
〒257-0003 秦野市南矢名3-10-35
東海大学同窓会館3階
TEL:0463-79-3921 FAX:0463-69-5087

名古屋大学出版会
〒464-0814 名古屋市中千種区不老町1 名古屋大学構内
TEL:052-781-5027 FAX:052-781-0697

三重大学出版会
〒514-8507 津市江戸橋2-174 三重大学附属病院5階
TEL:059-232-1356 FAX:059-232-1356

京都大学学術出版会
〒606-8315 京都市左京区吉田近衛町69
京都大学吉田南構内
TEL:075-761-6182 FAX:075-761-6190

大阪経済法科大学出版部
〒581-8511 八尾市楽音寺6-10
TEL:072-941-9129 FAX:072-941-9979

大阪大学出版会
〒565-0871 吹田市山田丘2-7
大阪大学ウエストフロント
TEL:06-6877-1614 FAX:06-6877-1617

関西大学出版部
〒564-8680 吹田市山手町3-3-35
TEL:06-6368-0238 FAX:06-6389-5162

関西学院大学出版会
〒662-0891 西宮市上ヶ原一番町1-155
TEL:0798-53-7002 FAX:0798-53-9592

広島大学出版会
〒739-8512 東広島市鏡山1-2-2
TEL:082-424-6226 FAX:082-424-6211

九州大学出版会
〒812-0053 福岡市東区箱崎7-1-146 九州大学構内
TEL:092-641-0515 FAX:092-641-0172

大学出版97号（2014年冬）
2014年1月1日発行
頒価100円（〒共）

発行所：
一般社団法人大学出版部協会
ISSN 0913-3305
振替00170-8-389131

〒102-0073
東京都千代田区九段北
1丁目14番13号
メゾン萬六403号室

TEL:03-3511-2091
E-MAIL: mail@ajup-net.com
URL: http://www.ajup-net.com/

—
使用書体：
平成明朝, W3, W5
Garamond FB, Light
使用紙：
紀州の色上質 特厚口 肌

—
表紙デザイン：
白井敬尚形成事務所